昭和51/52年度

高槻市文化財年報

高槻市教育委員会

はじめに

古くから文化の栄えた本市には、わが国の文化・歴史の理解に欠くことの出来ない文化財が豊富に残されております。これらの貴重な文化財を保存・保護するため、昭和４４年１０月に、文化財保護条例を制定し、各分野の基本調査や発掘調査を実施してまいりました。

近年、産業経済の進展、社会構造の変化、特にわが国の伝統的な生活様式、風俗慣習が社会構造の急激な変化により、これらの有形・無形の民俗文化財が急速に失われていく状況にあります。近年の急速な開発の波により、失われつつある民俗文化財を保存・保護するため、昭和５１年度から文化財愛護推進員や市民の方々の御協力により、調査・収集を進めてまいりました。これまでに、収集した資料を本市文化祭事業の一環として、民俗文化財展を開催出来ましたことは偏に、調査・収集に携り、あるいは、御協力頂きました方々の努力の賜ものとここに厚くお礼申しあげます。

ここにまとめました文化財年報は、昭和５１年、５２年度に実施した各調査の概略であります。今後の文化財保護の指針として活用いただければ幸いに存じます。

なお、この文化財年報の刊行にあたり、御協力を頂いた方々に厚くお礼申しあげます。

昭和５３年３月

高槻市教育委員会

社会教育課長　橋長　勉

目　　次

Ⅰ　文化財の調査 …… 1

1.　美術工芸 …… 1

2.　建造物 …… 1

3.　石造物 …… 2

4.　民俗文化財 …… 3

5.　埋蔵文化財 …… 3

Ⅱ　高槻市文化財一覧 …… 23

Ⅲ　図　　版

ＰＬ　１　美術工芸

ＰＬ　２　建造物・石造物

ＰＬ　３　石造物

ＰＬ　４　石造物

ＰＬ　５　石造物

ＰＬ　６　石造物

ＰＬ　７　民俗文化財

ＰＬ　８　埋蔵文化財調査位置図

ＰＬ　９　埋蔵文化財調査位置図

ＰＬ１０　埋蔵文化財調査位置図

ＰＬ１１　埋蔵文化財調査位置図

ＰＬ１２　安満遺跡

ＰＬ１３　安満遺跡

ＰＬ１４　安満遺跡

ＰＬ１５　安満遺跡

ＰＬ１６　嶋上郡衙跡

ＰＬ１７　嶋上郡衙跡

ＰＬ１８　嶋上郡衙跡

ＰＬ１９　嶋上郡衙跡

ＰＬ２０　嶋上郡衙跡

ＰＬ２１　嶋上郡衙跡

ＰＬ２２　嶋上郡衙跡

ＰＬ２３　嶋上郡衙跡

ＰＬ２４　富田遺跡

ＰＬ２５　富田遺跡・芥川城

ＰＬ２６　富田遺跡

ＰＬ２７　安満遺跡

ＰＬ２８　塚脇古墳群

ＰＬ２９　塚脇古墳群

ＰＬ３０　二子山古墳

ＰＬ３１　二子山古墳

ＰＬ３２　嶋上郡衙跡

ＰＬ３３　嶋上郡衙跡

ＰＬ３４　嶋上郡衙跡

ＰＬ３５　嶋上郡衙跡

ＰＬ３６　梶原寺跡

ＰＬ３７　梶原寺跡

ＰＬ３８　梶原寺跡

ＰＬ３９　梶原寺跡

ＰＬ４０　宮田遺跡

Ⅰ　文化財の調査

1　美術工芸

重要文化財　木造千手観音坐像修理

昭和４９年６月８日付で重要文化財に指定された。この仏像は最も一般的な形である四十二臂の千手観音坐像であり十世紀後半の典型的なものを示す像である。仏面を除く頭上面のすべてや脇手の大部分が当初のものであるのも貴重である。平安時代前期のこの地域を代表する雄作であり，わが国彫刻史の流れを研究するうえでも重要なものである。

しかし，この像は破損がひどいため，昭和５１年度，５２年度の２カ年計画で仏像修理を行なった。

〔破損状況及び修理内容〕

○　全体に虫蝕，朽損し欠失が多く，各矧ぎ目は離れ，脇手の接合部等の腐蝕が甚しく，手首から脱落及び欠失する。天冠台周辺の虫蝕がひどく矧ぎ目に沿う部分が朽損欠失している。

○　後補の手は形状が不適合であったため，これらの修正で行なった。欠失及び形状不適合の手を含めると左手１４個，右手１２個の修理が必要である。

○　矧ぎ目の離れる箇所や脱落する脇手等は板付けされているが，脇手の配列が形状不適合であり，持物は後補で右６，左４を残すのみで他は欠失していた。

○　像底部の朽損が甚しく，右膝頭の地付部が大きく割損し，左側後の地付には獣害孔があった。

○　光背，台座は亡失し，近時の修理の着色が見苦しく変色する部分があった。

〔修理仕様〕

○　殺虫を施し，矧ぎ目の緩む個所は解体し漆で接合緊結した。

○　虫蝕・朽損部は樹脂及び漆で硬化補修した。

○　後補材のうち見苦しい個所及び修正を行い，獣害や陥没による欠失部等は桧材で補修した。

○　脇手は形を整理して取付け後補の手は修理を行い，欠失部は桧材で補修した。

○　裳先は不適合につき修正を行い，各欠失部のうち損傷移行の恐れのある部分のみ桧材で新補した。

○　後補の変色部は色の修正を行い，修理個所はすべて古色仕上げとした。

重要文化財　木造千手観音坐像

昭和５１年度よりの継続事業として，欠失している台座の新補を行なった。

台座は桧材，黒漆塗り古色仕上げの宣字座で，台座の裏に修理記銘の銅札を貼りつけた。

2　建造物

普門寺方丈　（重要文化財）

富田町４丁目に所在する普門寺の方丈が大阪府教育委員会の有形文化財建造物として指定されていたが，昭和５２年１月２８日付文部省告示第２号により国の重要文化財に指定された。

〔指定説明〕

普門寺は慈雲山と号する臨済宗寺院で応永１１年以前に説厳和尚によって創立された。

はじめ，蘭溪派に属し，南禅寺金地院の下にあったが，享祿・天文頃に竜安寺の末寺となり，現在に至っている。方丈には棟札（注１）があって，元和７年に建立したものを正保二年になって竜溪宗潜が移したと伝えている。

桁行七間，梁間五間半，入母屋造で屋根は桟瓦を葺いているが，もとはこけらか桧皮葺であろう（注２）。南向きで，東側面に庫裏が接続し玄関はない。方柱，舟肘木，一軒疎垂木木舞裏で，平面な桁行中央部三間半を室中東寄り二間を下間，西寄り一間半を上間に分けるが梁間は南端一間を広縁，つぎ二間半を前室，北寄り二間を奥室としている。

上間奥室は東西に床と押入，北面に付書院を設けるが，押入と付書院は後に設けられたもので，もとは下間奥室の北面に付書院があった。室中奥室を復元すると，前側一間通りが仏間で，三間半通しの仏壇がつき，後ろ側一間は小部屋や物置になる。天井は各室とも猿頬天井で，室中には蟻壁を入れる。

柱間装置は広縁両脇が杉戸，正面中央が双折桟唐戸内明障子，背面の一部が土壁であるほかは無良戸（両面）引違内明障子となる。正面側には桟唐戸，無良戸，明障子とも古いものが残されている。内部間仕切は仏間の背側面が板壁となるほかは襖引違いで（注３），柱には辺付が付く。内法上は室中の前室奥室境の中央部のみ筬欄間，ほかは土壁としているが，もとは室中と上間，下間境にも筬欄間を入れていたらしい。

この方丈は木割が細くて建ちが低く，相当古風であり，上間と下間の間口が異るなど変わったところもある。京都に多い禅宗方丈が地方へ伝わる過程の一遺構として重要である。

注１　〔棟札〕（附指定）

（表）摂州島上郡慈雲山普門禅寺丈室上梁，先是元和第七辛酉春二月営建焉，大工河内守藤原政康，今至正保第二乙酉稔八月移基於此地尋一新厨庫等之数宇，伏

願大法紹隆五緑成熟以傅干永劫且製賀頌白，古来客座数維摩誰得度人斉𨻶多只把少林無孔笛大家唱起大平歌，杈，大工岡島甚右衛門尉清次，奉行祖澄首座等，住山龍渓宗潛誌焉，檀越徳松院妙雲心月大姉

（裏）文字なし

注２　芽負上端に軒付に相当する一木の材を置いている。桟瓦については，獅子口に嘉永五年（１８５２）のへら書があるので，この時に葺き変えられたものであろうか。

注３　襖は現在すべて新しい鳥の子を張っているが，狩野安信（永真安信）の墨画のある襖絵が別途保存されている。

3　石造物

調査目的

石造物には，石燈籠をはじめ，宝塔・宝篋印塔・五輪塔・石仏・手水鉢・石鳥居・狛犬・石橋・石碑など数項目があげられる。

今回は主に神社にある石鳥居・石燈籠・狛犬さらに道標などの数，造立年代等の基本的な台帳整備を作成する目的で，昭和５２年７月から始め現在調査中である。

市内にある５０ケ所の神社のうち３６ケ所を調査した結果，約４００基にも及ぶ石造物が確認された。そのほとんどが石燈籠や鳥居である。年代の確認できるもののうち大部分は１６００年代から１８００年代（江戸時代）に造られたものである。中でも古いのは安満の磐手杜神社の鳥居で１６２２年（元和８年）の建立であった。また，燈籠では同じ磐手杜神社で１６４６年（正保３年）の建立である。

石燈籠や狛犬は鳥居などと同じくいわば荘厳のためのものであるが，刻み込まれた文字から奉献・報恩・諸願成就などの目的から造立されたものと考えられる。

調査ケ所　３７ケ所

調査概要　鳥居　３２基（うち年不祥８）

手水鉢　１３基（うち　〃　２）

狛犬　２１対

燈籠　２８３基（うち対のもの１００，年代の判読できるもの２３２基，別表参照）

道標　１４基

燈籠・鳥居年代別一覧表

年号	西暦	燈籠	鳥居	年号	西暦	燈籠	鳥居
元和	1615～1624		1	宝暦	1751～1764	13	
寛永	1624～1644		1	明和	1764～1772	19	
正保	1644～1648	1		安永	1772～1781	17	1
明暦	1655～1658	4		天明	1781～1789	2	
万治	1658～1661	4		寛政	1789～1801	6	4
寛文	1661～1673	7	3	享和	1801～1804	4	
延宝	1673～1681	10	3	文化	1804～1818	12	1
天和	1681～1684	3		文政	1818～1830	15	2
貞享	1684～1688	2	2	天保	1830～1844	15	
元禄	1688～1704	15	3	弘化	1844～1848	8	
宝永	1704～1711	16		嘉永	1848～1854	7	
正徳	1711～1716	3		安政	1854～1860	4	
享保	1716～1736	21	2	万延	1860～1861	4	
元文	1736～1741	2		慶応	1865～1868	4	
寛保	1741～1744	2					
延享	1744～1748	9	1				
寛延	1748～1751	3		計		232	24

※ 慶安（1648～1652）・承応（1652～1655）・文久（1861～1864）・元治（1864～1865）年間については現在のところ該当するものはない。

名　　称　本山寺石造宝篋印塔

所 在 地　高槻市大字原３２９８番地

所 有 者　本山寺

管 理 者　百済寂詮

概　　要

本山寺は役小角の草創と伝える天台宗の寺院である。宝篋印塔は本堂後方の丘陵尾根上にある経塚に建つ。この経塚は法華経を埋納していると伝えられる。

塔は総高 1.91 m の花崗岩製の全階式宝篋印塔で，各部とも完存し，周囲を野面石積みとした方形の土壇上に建っている。造立年代は刻銘を有しないため明らかでないが，様式手法からみて鎌倉時代後期のものと考えられる。

基礎は上角を階段状に作り，塔身には東面に弥陀，南面に不空成就，西面に阿閦，北面に宝生の種子を薬研彫りにしている。笠石は隅飾りの突起を軒先と同一面に垂直に立て，内側の曲線は一つの孤からなり，笠石と隅飾りの境目には界線を刻す。相輪は九輪を線刻であらわし，伏鉢及び九輪上の請花には単弁の八葉蓮弁を刻んでいる。

この塔は全体の形がよく整った古式のもので，鎌倉時代後期の保存のよい宝篋印塔として貴重である。

4　民俗文化財

民俗文化財収集の目的

1. 民俗文化財は，社会生活や生産様式等の変移に伴い，消滅あるいは，その姿を変えつつある。それ故に，早急にこれらの保護を徹底し，その活用を図り，文化の向上に資していかなければならない。

消滅・変化は本市においても例外ではない。そこで，昭和５１年に高槻市民俗文化財収集要項を作成し，５１年１２月よりこれに基づき調査・収集を開始し，現在収集整理できているものは（表）のとおりである。

分　　類	点　数	主なもの
1. 農　　具	62	石臼・馬鍬等
2. 機織・養蚕具	32	高機・きぬた等
3. 漁　　具	16	漁火・うなぎかぎ等
4. 家　　具	78	箱火鉢・燭台等
5. 衣服・装身具	49	みの・櫛・こうがい等
6. 交易用具	11	棹秤・箱算盤等
7. 運搬具	2	川舟
8. 社会生活用具	4	力持石・竜吐水等
9. 信仰用具	2	のぼり
10. 人の一生の用具	3	嫁入かご．打ち掛け
計	259	

<注>　●収集は，寄贈を原則としている。
　　●寄贈者は２４名である。

2. 昭和５２年度高槻市文化祭事業の一環として，収集整理できたものを，市民会館G階において展示した。

期　間　　昭和５２年１１月５日～１８日

展示数　　約２００点

5　埋蔵文化財

1. 安満遺跡

所　在　地　　高槻市高垣町３１６

調査面積　　1,６００m^2

調査期間　　昭和５１年１１月１５日～１２月１６日

調査経過

当該地は昭和４３年に大阪府教育委員会によって調査された高垣町の住宅地の南西隣に接する水田である。この付近では弥生時代後期の竪穴式住居址が検出されている他は不明確な部分が多い。今回，分譲住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（0.1m）・床土（0.05m）・黄灰色土（0.2～0.3m）・暗褐色土（0.2～0.3m）で，地山は黄褐色の砂質気味の粘土である。調査地区の東側半分は青灰色の砂礫が拡がり遺構・遺物はまったく検出されなかった。西側部分では古墳時代の土坑墓６基と溝状遺構・井戸を検出した。

土坑墓は２基ずつ３か所で検出した。１号土坑墓は直径約１mの円形を呈し，深さ0.1mを測る。２号土坑墓は長さ1.3m・幅０８m・深さ0.1mの長方形，３号土坑墓は長さ1.6m・幅1.2m・深さ0.2mの隅丸方形，４号土坑墓は長さ２m・幅1.3m・深さ0.1mの隅丸方形を呈する。５・６号土坑墓は直径約１mの円形を呈し，深さ0.1～0.25mを測る。いずれも内部から土師器の破片が認められた。

井戸は調査地区北側で検出した。掘り方は二段掘りで，上端は径2.6m・底部では径0.7mを測り，深さ1.9mの円形素掘りである。

他に，幅１～２m・深さ0.1m程の溝と５・６号土坑墓の東側に南北１１m・東西５～６m・深さ0.5mの落ち込みを検出したがその性格はいずれも不明である。

遺　　物

土師器・須恵器が暗褐色土層から，井戸内からは庄内式土器が出土している。また，柱状石斧２点と砥石１点が出土している。

所　　見

古墳時代の墓地としての可能性を示しており，北側の住宅地には古墳時代の集落が埋没しているものと考えられる。

（橋本）

2. 安満遺跡

所　在　地　　高槻市高垣町１７

調査面積　　1,４１４m^2

調査期間　　昭和５１年１１月２９日～１２月２２日

調査経過

当該地はさきに調査を実施しているところの南側にあたり，材木置場の建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　　構

北側の調査地区より現地表面が約５０cm程低くなっているが，基本的な層序に変化はなく土層の色調が少し変っている程度である。耕土（0.1m）・床土（0.1m）・灰色砂質粘土（0.3m）・褐色土（0.5m）と堆積し，地山は黄灰色の砂質気味の粘土である。地山面に溝および方形周

溝墓群を認めた。

溝は調査地区西部において検出した。幅１ｍ・深さ 0.1 ｍ程度で，東西および南北方向に走る溝があり東西方向のものは約１３ｍの間隔をおいて平行で，南北方向のものはこれと直交するようである。時期は弥生時代と考えられる。

方形周溝墓は５基を検出したが，いずれも溝を接している。幅 1.2～２ｍ・深さ 0.4 ｍを測る周溝で囲まれた１号方形周溝墓は、検出し得た周溝墓中最大規模で，周溝内縁は長辺８ｍ・短辺７ｍを測る。なお，東側の周溝内から板状の木製品が出土している。２号方形周溝墓は１号方形周溝墓の南側周溝と共有するもので，幅１ｍ・深さ 0.5 ｍの周溝で西側が区画されている。東側は別の周溝によって掘さくされているため明確ではないが長辺４ｍ・短辺３ｍ程度である。３号方形周溝墓は幅 0.4 ｍ・深さ 0.2 ｍの周溝に囲まれ長辺約４ｍを測り，周溝は完結せずに西側でＬ字状になっている。２・３号方形周溝墓は１号方形周溝墓の南に連結し，方向も同一である。４号方形周溝墓は１号方形周溝墓の東側の周溝を共有して接するもので，西北隅部しか認められなかったが，１号方形周溝墓と同一方向と考えられる。北側の周溝は幅 1.4 ｍ・深さ約 0.3 ｍを測る。１・２・３・４号方形周溝墓の主体部は認められなかった。５号方形周溝墓は４号方形周溝墓の北側周溝に接するもので１～４号方形周溝墓と方向を異にしている。周溝は幅 0.5 ｍ・深さ 0.2 ｍで，周溝内縁は長辺 4.8 ｍ。短辺４ｍを測る。中央部に主体部として木棺と土壙墓を検出した。木棺は長さ 1.45 ｍ・幅約 0.6 ｍの長方形墓壙の底部に暗灰色粘土を１３cmの厚さに敷き，その上に埋置し，蓋板まで灰色粘土で覆っていた。蓋板は長さ１１４cm・幅３０cm・厚さ３cmを測る。側板は東側のみ遺存し，高さ１４ｍ・下部で厚さ４cm・長さ１１１cmを測る。木口板はかなり腐蝕していたが原位置をとどめていた。いずれも底板の端から１～２cm内側におかれ，木口板間は１０４cmを測る。蓋板はかなり腐蝕しているが，長さ１００cm・幅２７cm・厚さ 2.6 cmを測る。なお，木口板を固定するためのほぞ穴は底板・側板ともに認められなかった。また，木棺内部には遺物はなかった。木棺に隣接する土壙墓は長さ 1.7 ｍ・幅１ｍ・深さ約 0.1 ｍを測り，隅丸方形を呈している。遺物や木棺の痕跡はまったく認められなかった。

遺　　物

調査地区西部の溝内から弥生式土器が出土している程度で遺物の量は少ない。１号方形周溝墓の周溝内から第Ⅰ様式の破片が１点出土しているが，時期決定としては不適当と考えられる。

所　　見

今回，検出した方形周溝墓群の時期は出土遺物が少ないため明確さを欠くが，一応中期と考えてよいだろう。なお，今回の調査区を含めて，桧尾川に近いところでは，３ケ所の弥生時代墓地群が明らかとなった。（橋本）

3. 安満遺跡

所 在 地　高槻市八丁畷町１２－１

調 査 面 積　２８７．５ ㎡

調 査 期 間　昭和５２年１月１７日～２月３日

調 査 経 過

京大農場の周辺部分については最近の調査によって実態が徐々に解明されているが，京大農場内は昭和３年の遺跡発見時に事務所南側と，昭和４５年に外周部分の範囲確認調査を行ったにすぎない。今回，農場の灌水設備に伴う配管地巾埋設工事が計画されたため，立合い調査を実施した。

遺　　構

工事は幅３０～５０cm・深さ約９０cmを掘さくして配管するもので，農場東部の果樹園・事務所北側・および事務所西側の倉庫付近が掘さくされ，地区名では２４・２５・２６区をまたがる細長いトレンチを設定したことになった。掘さくが深さ約９０cmで止まるため，遺構検出面までには至らなかったが，部分的に遺構を検出することができた。事務所北側では盛土（ 0.2 ｍ ）・床土（0.1 ｍ ）・暗褐色土（ 0.3 ｍ ）・暗褐色粘土（ 0.4 ｍ ）と堆積，地山は黄褐色粘土である。この部分では暗褐色粘土がレンズ状に堆積し溝状遺構となっているのをはじめ径 0.5 ｍ程の円形ピットがみられた。

果樹園でも暗褐色土は堆積しているが，東方および北方では薄くなっている。また，南にむけて地山が下降し，砂礫が多くなるようで遺物・遺構はほとんどみられない。

遺　　物

事務所北側で弥生式土器が出土している。ほとんどが弥生時代中期のものであるが，前期ものも数点みられる。

所　　見

従来の見解どおり，農場事務所付近が遺跡の中心部と推定される。出土した土器には第Ⅳ様式期のもかなりみられ，昭和４２年に調査した方形周溝墓との関連が想定される。

東方の果樹園付近では遺構が希薄で昭和４５年の木棺墓検出などと考え合わせると，この地区は弥生時代の墓地ではなかろうか。（橋本）

4. 安満遺跡

所　在　地　　高槻市安満新町３７９－１

調査面積　　７４０㎡

調査期間　　昭和５２年２月２２日～３月９日

調査経過

当該地は国鉄検車区の北側で，すぐ北を西国街道が走っている。付近は分譲住宅の建設が多く，昭和４８年の東側地区の調査では弥生時代中期（第Ⅳ様式）の溝をはじめ，縄文時代晩期の土器が多数出土している。今回，分譲住宅の建設が計画されたため調査を実施した。

遺　　構

耕土（０.２ｍ）・床土（０.０５ｍ）を除去すると黄灰色砂質粘土（地山）となる。土坑墓・壺棺墓および溝を検出した。

土坑墓はいづれも調査地区北側に位置している。１号土坑墓は長さ１.３ｍ・幅０.４ｍ・深さ０.１ｍを測り，ほぼ長方形を呈しており弥生時代中期の土器が出土している。２号土坑墓は半月状を呈しており，長さ１.６５ｍ・幅０.４５ｍ・深さ０.２５ｍを測る。壺棺墓は土坑墓の北側に位置し，直径約０.８ｍ・深さ０.３ｍの円形の墓坑内に弥生時代中期の壺が横倒しになって検出された。

溝は幅２ｍ・深さ０.５ｍで調査地区の西北方から東南方にむかって掘さくされたもので，溝内からは弥生時代中期の土器が多数出土している。

遺　　物

溝内・土坑墓・壺棺墓の遺物はいづれも弥生時代中期（第Ⅳ様式）のものである。特に，壺棺墓は西の辻Ｎ地点出土の壺の特徴を有するものである。

所　　見

今回検出された溝は方向や遺物からみて，東側の調査地区で検出された溝と連結するものと考えられ，弥生時代中期には検車区東側を数十ｍにわたって溝が掘られていることが明らかとなった。この溝が占める位置は不明であるが，今回の調査地区より北では遺構・遺物がほとんど検出されないところから，あるいは安満遺跡の北限を示すものであるかもしれない。（橋本）

5. 嶋上郡衙

所　在　地　　高槻市清福寺町２８６－１，８４６－２

調査面積　　１９９.７９㎡

調査期間　　昭和５１年６月７日～６月２３日

調査経過

当該地は史跡嶋上郡衙跡の東北方にあたり，清福寺町の公民館が老朽化したため，改築することになった。このため，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（０.８ｍ）・耕土（０.３～０.４ｍ）・暗褐色土（０.４ｍ）・青灰色砂礫層となる。暗褐色土層上面に数個の柱穴がみられた。この暗褐色土層には布留式土器や須恵器，瓦器などが包含されているため，この柱穴は鎌倉時代以後のものと考えられる。暗褐色土層を除去し，青灰色砂礫層の上面で遺構を精査したが遺構らしきものは検出されなかった。

遺　　物

土師器・須恵器・瓦器・近世陶器・瓦が出土している。

所　　見

調査範囲が狭小で遺構の拡がりについては明確さを欠く。当調査区の東北方でも中世の遺構が検出されているため，郡衙東北部に中世の集落が営まれたことを裏づけている。

（橋本）

6. 嶋上郡衙跡（６６－Ｄ・Ｈ地区）

所　在　地　　高槻市川西町１丁目１０２０－１・２

調査面積　　２１６１.４６㎡

調査期間　　昭和５１年６月１２日～７月１６日

調査経過

当該地は市道辻子・下ノ口線と西国街道が交差する地点から東約５０ｍのところで，北側は西国街道（旧山陽道）に隣接している。

今回，分譲住宅の建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（約１ｍ），耕土（０.２ｍ）で包含層はなく，すぐ黄褐色粘土（地山）になる。

調査区の中央部西側で径０.３～０.５ｍの柱穴３個と，幅１ｍ，長さ２ｍ，深さ０.２ｍの土坑１基を検出した他，南東隅と南西隅で落ち込みの一部を検出した。埋め土はすべて黒色粘土で弥生式土器を少数包含していた。

遺　　物

柱穴・土坑・落ち込みからは，弥生時代後期の甕・高杯・壺の小破片が若干出土した。その他，中央部の粘土取り跡からは，５世紀中頃の須恵器蓋・甕片が数点と中世磁器片が１点ある。

所　　見

西国街道より南側の遺構のあり方は，すぐ東側の６７－Ａ地区において，弥生時代末期の円形プランの竪穴住居跡と奈良時代の２間×３間の掘立柱建物跡が知られているが，一様に遺構の拡がりが希薄な地区であると考えられる。

（大船）

7. 嶋上郡衙跡

所　在　地　　高槻市清福寺町８８６－２

調 査 面 積　　８７０㎡

調 査 期 間　　昭和５１年７月９日～９月３日

調 査 経 過

当該地は式内社阿久刀神社の南西側に接した水田である。分譲住宅の建設が計画されたため発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（０.１ｍ）・床土（０.２ｍ）・灰褐色土（０.１ｍ）・暗褐色土（０.３ｍ），砂礫気味の黄褐色土となる。遺構は黄褐色土層上面で検出される。層位的には区別できないが，弥生・古墳・奈良・平安時代の遺構に分かれる。平安時代の遺構としては掘立柱建物跡５棟である。

掘立柱建物Ｈ２は２間（柱間１.８ｍ）×２間（柱間１.８ｍ）の正方形の建物で方向はＮ－２３°－Ｅである。掘立柱建物ＨＨ３は１間（柱間２.０ｍ）×３間（柱間１.２５ｍ）の南北に長い建物で，方向はＮ－１０°－Ｅである。

掘立柱建物ＨＨ４は２間（柱間１.６ｍ）×２間（柱間１.９ｍ）の少し南北に長い建物で，方向はＮ－１７°－Ｅである。掘立柱建物ＨＨ５は２間（柱間１.８４ｍ）×２間（柱間１.８４ｍ）の東柱をもつもので倉と考えられる。方向はＮ－１４°－Ｅである。掘立柱建物ＨＨ６は２間（柱間１.８４ｍ）×２間（柱間２.１２ｍ）の少し南北に長い建物で方向はＮ－１２°－Ｅである。

奈良時代の遺構としては９基の土壙墓と１棟の掘立柱建物跡を検出した。

土壙墓の多くは不整形で，方向性にまとまりがなく，グループごとにまとめることが不可能である。

掘立柱建物ＮＨ４は２間（柱間１.６８ｍ）×３間（柱間１.５２ｍ）の東西に長い建物である。方向はＮ－３°－Ｅである。

古墳時代の遺構としては，周辺で検出されたものと同様方形を呈する竪穴式住居址２棟を検出した。

竪穴式住居址ＫＨ１は長辺５.３ｍ・短辺５.１ｍを測り，床面はほぼ平担で，布留式の鉢・高杯が出土している。

竪穴式住居址ＫＨ２はＫＨ１の北隣に位置し，一辺４.５ｍの方形を呈する。

弥生時代の遺構としては方形周溝墓２基と壺棺墓１基を検出した。

４号方形周溝墓は，幅１.８ｍ・深さ約０.５ｍの周溝に囲まれたもので周溝内縁は東西約７ｍ，南北７ｍ以上である。東北部に幅約２ｍの陸橋部がある。周溝内側には６基の土壙墓が検出された。時期は弥生時代中期（第Ⅲ様式）である。

壺棺墓は，４号方形周溝墓が埋没した段階で設けられたもので東側周溝外縁で検出した。直径０.７ｍ・深さ０.１５ｍを測る円形の掘り方内に口縁を打ち欠いた壺を横倒しにし，頸部に別の壺の底部をかぶせたものである。時期は後期（第Ⅴ様式）である。

遺　　物

暗褐色土層中から土師器・須恵器・弥生式土器が，また竪穴式住居内から布留式土器が出土した。

所　　見

奈良時代の土壙墓はこれまでほとんど検出されておらず，奈良時代の墓地を知る上で重要である。また，方形周溝墓は一基だけではなく調査地区外にも連なっているようであり，竪穴式住居址とあわせて郡衙成立以前の様子を知るうえで重要である。（橋本）

8. 嶋上郡衙跡

所　在　地　　高槻市清福寺町８９４～１

調 査 面 積　　７１７㎡

調 査 期 間　　昭和５１年７月６日～８月１２日

調 査 経 過

当該地は史跡「嶋上郡衙」の北に位置し，現状は水田である。今回，個人住宅建設に先立って，発掘調査を実施した。

遺　　構

まず調査区全域を重機で堀り下げ，遺物の検出につとめるとともに，遺構面を追求した。その結果，遺構面は１面のみで，全ての遺構が地山面にみとめられた。層序は，耕土（０.１５ｍ），床土（一部分），整地層（０.２ｍ），灰褐色砂質土層（０.２５ｍ），茶褐色土層〔遺物包含層〕（０.３ｍ）で，以下地山になる。遺構としては弥生時代中期（畿内第Ⅳ様式）の方形周溝墓３基，奈良時代の掘立柱建物跡３棟，平安時代の掘立柱建物跡１棟の他，配石土壙・集石遺構，土壙等がある。周溝墓は調査区の北西部に認められ，いずれもその１端が調査区域外にあるため，その全様は明らかでないが，１号および２号は１辺８ｍ，３号は１辺５.７ｍを測る。

住居址は，１辺５ｍ弱の方形を呈し，四柱穴構造をもつもので，建て替えは認められない。

掘立柱建物跡の内，奈良時代の柱穴は，掘り方が１辺０.８～１.２ｍでほぼ方形を呈しているのに対し，平安時代のものは小さく不整形である。

遺　　物

弥生時代の遺物は，中期～後期にかけての壺・甕・鉢・高杯などで，その遺存状態は全体に悪い。古墳時代の遺物は，須恵器（器台・高杯）片が若干出土している。奈良時代の遺物は，土師器・須恵器片が出土しているが，まとまったものはない。平安時代の遺物は，黒色土器，燈明皿，瓦類があげられる。

所　　見

弥生時代の集落は，これまで３８－K地区および７４－H地区から検出された方形周溝墓群の存在によって，少なくとも中期には，２つの集落のあることが考えられていた。そして今回の調査によって，もう１単位中期の集落の存在をみとめることとなった。また，奈良時代の建物跡を検出したことは，郡衙関連遺構の北地域への拡がりを考える上で貴重な資料であろう。（森田）

9. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市川西町１丁目９７２－１

調 査 面 積　１０４．３８m^2

調 査 期 間　昭和５１年８月１９日～２１日

調 査 経 過

当該地は史跡「嶋上郡衙跡」の南にあたり，現西国街道に北接している。今回個人住宅改築に先立って，調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（０.６ m），耕土（０.１ m），床土（一部分），淡茶灰色土層（整地層 0.25 m），暗褐色土層〔遺物包含層〕（０.３ m），以下地山となる。弥生～古墳時代にかけての遺物包含層を確認した。また調査区の南端から，平安時代のものと考えられる流路を検出した。その他の遺構は認められなかった。

遺　　物

二重口縁部を有する壺の一部と受口状口縁を有する壺の一部が出土した。また流路と考えられるところから，須恵器片および曲げ物の底板と思われるものが出土している。

所　　見

今回の調査では，郡衙に関連する遺構はみとめられなかった。しかしながら弥生時代末の遺物包含層を検出しえたことは，６７－A・E区で検出している住居址と考え合わせたとき，この周辺に集落のあったことが推測できる。（森田）

10. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市川西町１丁目１００５－１

調 査 面 積　４５ m^2

調 査 期 間　昭和５１年９月１３～１６日

調 査 経 過

当該地は史跡「嶋上郡衙跡」の南にあたり工場の水槽設置工事に先立って発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土下に暗褐色土（０.７ m）・褐色土（０.２～０.３ m）・黄灰色砂質土と堆積している。地山は黄灰色砂質土であるが，どの層からも遺構・遺物は検出されなかった。

所　　見

郡庁の付近と推定される地区であるが，遺構・遺物がまったく検出されず，郡庁の拡がりを考えるうえで重要である。（橋本）

11. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市清福寺町９０３－１

調 査 面 積　７０．０７m^2

調 査 期 間　昭和５１年９月２１日～２４日

調 査 経 過

当該地は史跡「嶋上郡衙跡」の北に隣接している。今回，分譲住宅の建設にともなう水路及び道路が施工されることになったため調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（０.３ m）・床土（０.１ m）・暗褐色土（0.3 m）で地山は砂礫の混入する黄褐色土である。南半分は水路のために破壊されており，幅 0.6 m程度しか調査できず，数個の柱穴を検出したしたにとどまった。

遺　　物

弥生式土器・須恵器が出土した。

所　　見

調査区が狭小なため，明確な遺構を検出することはできなかった。（橋本）

12. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市清福寺町７８９－１，７９０－２

調 査 面 積　２０５m^2

調 査 期 間　昭和５１年１０月４日～１１月５日

調 査 経 過

当該地は，史跡「嶋上郡衙跡」の東北方にあたり，これまでの調査では，古墳時代の集落跡や平安時代の遺構を確認している。今回，分譲住宅建設に先立って，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（0.15m），床土（0.15m），灰褐色土層（0.15～0.25m），暗茶褐色土層（0.2～0.3m），暗褐色土層（0.1～0.2m）で，地山になる。

弥生時代の遺構は，溝と井戸が認められた。溝は，調査区東辺を東へ4度ふれて南流している。溝内の層序は，上方から暗灰褐色土層（第Ⅱ様式～第Ⅴ様式），茶褐色土層（第Ⅱ様式），青灰色粘質土層（第Ⅱ様式）とつづいて，溝底に至る。上端での溝幅は不明だが，溝底中心線から折り返して推定すると3m前後となり，溝底幅は0.7～0.8m前後を測る。また溝底の傾斜角度は緩く，ほとんど滞水していたものと思われ，事実，最下層の青灰色土層は，砂粒を含まない粘土質であった。このことは，この溝が掘さくされた性格を示すものであろう。井戸は，調査区南寄りで検出された。ほぼ円形を呈し，上端で径1.75m，底部で0.6m，深さ1.1mを測る。層位的には3層に分かれ，中から破砕された大量の土器（第Ⅴ様式後半）が出土した。一方，弥生～古墳時代にかけての住居址を1基検出した。南北5.4m，東西4.1m以上を測り，建て替えが認められる。住居址の中央には焼土を内包したPitがある。上層からは，布留式土器，下層からは，タタキ目を有する土器片が出土している。この住居址の正確な時期については明らかでない。その他，奈良時代の土器棺や土壙墓等が認められた。

遺　　物

縄文式土器（船橋式），弥生式土器（第Ⅱ様式の壺・甕・鉢，第Ⅴ様式の壺・甕・鉢・高杯），布留式土器（壺・甕・鉢・高杯・器台），土師器（甕・堝・皿）等が出土している。

所　　見

今回の調査で，奈良時代の建物跡は認められなかった。しかし土器棺墓や土壙墓を検出したことは，当該地が史跡「嶋上郡衙跡」の外辺地域にあたるところから，その拡がりを考えるに充分なものと思われる。さらに，第Ⅱ様式の溝を検出したことは，嶋上郡衙跡の生成を考えるうえで興味深い。（森田）

13. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市郡家新町242，243－3

調査面積　672m²

調査期間　昭和51年10月6日～11月6日

調査経過

当該地は神郡社の南約350mで小字名は高津である。西約20mの水田において，昭和45年に大阪府教育委員会が行なった範囲確認調査では旧山陽道跡とみられる石敷や溝を検出している。下水道清掃会社の事務所兼倉庫が改築されることになったため発掘調査を実施した。

遺　　構

事務所兼倉庫の基礎によって，遺構がかなり破壊されていたが，山陽道跡とみられる石敷や側溝を検出した。

山陽道跡はこぶし大の石とつきかためられた幅約5mの茶褐色粘土があり，この粘土面は南北に傾斜していて，西方の確認調査で確かめられた北側の石敷の延長とみられる。

この粘土面は調査地区西側では厚く，東側では薄くなり，石もみられなくなる。この道路敷とみられる石とつきかためられた粘土面の北側には幅1m・深さ0.1mの浅い溝が検出され，道路敷の北側を画しているものと考えられる。この道路幅は南側を新しい時期の溝によってある程度削られているが，本来5～6mと考えられる。

道路敷とみられる粘土層から南へ約15mの間隔をおいて幅2～3m・深さ0.5mの溝が検出された。この溝は北の道路敷と同一方向で，内部から土師器・須恵器の他に上層部から瓦器椀が出土しており奈良時代から平安時代にかけて流れていたらしい。この溝の北側には小石をつきかためたような様子はなかったが，西方の確認調査の様子や地山面に黒色土器や土師器破片がみられることから，この部分も道路敷であったとみられる。

今回の調査では北側の石敷と南側の前後関係を明確にすることはできなかったが，当初南側に幅10m前後の道路敷があり，のちに北側に幅5～6m程度の道路敷がつくりかえられたとみられる。

なお，いずれも標高14.8m前後を測り，道路敷下には古墳時代の遺物包含層がみられる。

所　　見

今回の調査では山陽道の実態を明らかにする資料を得るとともに，山陽道の側溝が平安時代末に埋没していることがわかった。このことは，郡衙が平安時代以後その機能を失うこととあわせて，律令体制のあり方にも問題をなげかけるものである。（橋本）

14. 嶋上郡衙跡（68－C・G地区）

所 在 地　高槻市川西町1019

調査面積　985m²

調査期間　昭和51年10月13日～10月23日

調査経過

当該地は市道辻子・下ノ口線と西国街道が交差する地点から東約30mのところで，北側は西国街道（旧山陽道）に面している。ここに個人住宅の建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（0.15 m）ですぐに黄褐色粘土（地山）になる。調査区からは遺構・遺物は検出することができなかった。

所　　見

東側の調査区と合せて，西国街道の南側では，後世の攪乱によるものか遺構は少ない地域であることが確認できた。（大船）

15. 嶋上郡衙跡（38－M・N地区）

所 在 地　高槻市川西町1丁目959－2

調 査 面 積　330.9 m²

調 査 期 間　昭和51年11月1日～11月25日

調 査 経 過

当該地は市立川西小学校の東側にあたり，個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（1.5 m），耕土（0.2 m），床土（0.25 m），暗褐色土層（0.35 m），茶褐色土（地山）である。

検出した遺構は，弥生時代後期の方形周溝墓・土坑墓・壺棺と古墳時代の落ち込み・柱穴である。

南側中央部で検出した1号方形周溝墓は，大部分が調査地区外にあり明らかでない。周溝の幅は約1～2 mで深さは0.25 mと浅く，西側で陸橋となり一巡しない。主体部は明らでない。

2号方形周溝墓は，東半分のみを検出した。その規模は，東辺約3.5 mで周溝の幅約1.5 m・深さ約0.2 mを測り，北側で陸橋部となり一巡しない。主体部は不明であるが，周溝に接して土坑墓を2基検出した。

土坑墓は，これらの方形周溝墓の周りに大小あわせて10基を検出した。その中で径約1.1 m・深さ0.5 mの土坑墓には，横に寝かせた大きな壺棺が埋置されていた。壺棺は腹径42 cm・器高53 cmを測り，口縁部を打ち欠き，底部に穿孔していた。

北東部で検出した古墳時代の落ち込みは，深さ0.3 mの南北に長い溝状のものである。柱穴は，径約0.2 m・深さ約0.1～0.15 mを測る小さなものが十数個認められた。

遺　　物

暗褐色土層からは弥生時代中期から6世紀末までの遺物が若干出土した他，方形周溝墓の周溝からは弥生時代後期の土器片が少量出土した。古墳時代の落ち込みと柱穴からは，5世紀末頃の須恵器・土師器片が小量出土している。

所　　見

この周辺一帯は，弥生時代中期～後期に至る一大墓地群の存在が明らかとなった。その後5世紀以後に居住地として開発されたことがうかがえる資料であろう。（大船）

16. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市清福寺町887番地

調 査 面 積　641 m²

調 査 期 間　昭和51年11月17日～12月20日

調 査 経 過

当該地は，史跡「嶋上郡街跡」の北に位置し，周辺での調査結果から，弥生時代～平安時代にかけての遺構の存在が考えられるところである。今回，分譲住宅建設に先立って，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は，耕土（0.1 m），灰褐色砂質土層（0.2 m），茶褐色土層〔遺物包含層〕（0.3 m）で，以下地山となる。

遺構は，古墳時代の住居址6基，平安時代の石組井戸1基，および時期不明の土坑，柱穴若干を認める。

住居址はいづれも方形で，1辺4 m～6 mの規模をもつ。比較的遺存状態の良好な3号住居址は，南北6 m，東西5 mを測り，四柱穴構造を有する。柱穴は径0.15～0.2 m，深さ0.35～0.4 mを測る。中央に径0.5 m，深さ0.15 mの焼土坑がみとめられ，炉跡の可能性が強い。さらに，住居址の壁面に接して北西隅および西側中央には土坑があり，平行する2本の溝で囲まれているところから，何らかの施設の存在が考えられる。

井戸は，この住居址の東南隅を切って構築されている。掘り方は南北3.4 m，東西3 mの方形を呈し，現存深3.4 mを測る。石組み内径は上辺が1.5 m×1.3 mのほぼ方形で，東側で若干張り出している。下辺は南北0.8 m，東西0.95 mの方形である。ただ下辺の軸線と上辺の軸線に9°のずれがあり，上辺と下辺の平面はねじれの位置にある。掘り方の相対関係では石組下縁がほぼ掘方の中心に位置しているのに対し，上縁ではねじれて組み上げたために東の方へずれ，掘り方の軸線とも必然的にずれを生じている。層位的には上層（茶褐色土層）と下層（暗褐色泥土層）に大きく分れ，上層にはほとんど遺物を含まず，その多くは，下層から検出されている。

遺　　物

弥生時代の遺物は後期の土器片のみである。古墳時代のものでは，3号住居址から出土した庄内式期～布留式期にかけての壺の口縁部，および高杯が出土している。また，平安時代の遺物は，井戸から出土したものがほとんどで，土器類と木製品類がある。土器類としては，墨書土師器皿2点をはじめ，黒色土器，燈明皿，羽釜，土釜，緑釉陶器，

灰釉陶器，把手付鍋，平瓦，須恵器片等がある。2点の墨書土器はほとんど底に近いところの同一個所で検出し，どちらもほぼ完形に近い。うち1点は径14cm，高さ2.5cmを測る。底部内面に5行の墨書があり，それぞれ左から「中史（央）土公水神王」・「西方土公水神王」・「東方土公水神王」・「南方土公水神王」・「北方土公水神王」とよめる。なお「南方云々」の行は他の行とは逆方向に書かれている。そして口縁部内面に「封」の文字を横に12ならべて書き，それらの文字の上に1条の墨書線をひいている。他の1点は，径14cm，高さ2.7cmを測り，先のものとほぼ同一の法量を示す。墨書は内面にみとめられ，底部中央から口縁部にかけて，大きく「天座大神王」，またこれと直角方向へ同じく底面から口縁部にかけて，「十二神王」と書かれている。これらの墨書土器は，井戸を新しく構築した際に，水に住む神を祀ってその怒りを鎮め，井戸の水が枯れないように祈念する祭祀に用いられたものと考えられる。具体的には2つの皿を合口にして紐で結び，土器の中に「天座神」・「水神王」などの神々を封じ込め，井戸に沈めたものであろう。木製品類は曲物・櫛・御幣・一端が黒焦げた棒状木片等がある。その他にマツカサ・モモの種子・ドングリ・ヒョウタン等の自然遺物も出土している。

所　　見

今回検出した6基の住居址は，史跡「嶋上郡衙跡」の北辺一帯に拡がる弥生～古墳時代初頭にかけての集落の一部であろう。この集落の規模は相当大きなものと考えられ，今後の詳細な調査が期待される。また平安時代の井戸を検出したことは，この辺一帯が集落址であったことを確実なものにした。（森田）

17.　嶋上郡衙跡（6－M・N地区）

所　在　地　　高槻市清福寺町886－1

調査面積　　764m^2

調査期間　　昭和51年12月13日～12月27日

調査経過

当該地は式内社阿久刀神社の南西約50mのところにあたり，分譲住宅の建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（0.15m），床土（0.15m），黒褐色土層（0.1～0.7m），黄褐色粘土～礫層（地山）になる。

検出した遺構は，奈良時代の掘立柱建物跡・土坑と弥生時代の竪穴式住居跡がある。

掘立柱建物跡（NH_5）は，西側で検出された2間（柱間2.45m）×5間（柱間1.89m）の南北に長い比較的大きな建物である。主軸はN－2°－Wである。

掘立柱建物跡（NH_6）は，中央部で検出した2間（柱間2m）×5間（柱間2.12m）の東西に長い建物である。主軸はN－0°－Wである。

掘立柱建物跡（NH_7）は，中央部で検出した2間（柱間1.9m）×2間（柱間1.7mと3.8m）の南北に長い小さな建物である。主軸はN－1°－Eである。

掘立柱建物跡（NH_8）は，東側の地山面が急に傾斜する変換地で検出した2間（柱間2.25m）×3間（柱間2.46m）の南北に長い建物である。主軸はNH_5と同じで北梁はNH_5の南梁の延長線上に位置する。

掘立柱建物跡（NH_9）は，NH_8のすぐ北側で検出した2間（柱間1.9m）×3間（柱間2.1m）の南北に長い建物である。西桁はNH_8の延長線上に位置し，規模はNH_8より少し小さい。

土坑（D_1）は，NH_5の南側で検出した長辺2.8m・短辺1.6m・深さ0.2mの長方形の大きなもので底面はほぼ水平である。

土坑（D_2）は，NH_6の南側で検出した長径約1.6m・短径0.6m・深さ0.25mの長方形の土坑である。

土坑（D_3）は，南側中央部で検出した長径約1.2m・短形0.8m・深さ0.1mの長円形の浅い土坑である。

土坑（D_4）は，南側中央部で検出した長径1.5m・短径約0.7m・深さ0.2mの長円形を呈する土坑である。

土坑（D_5）は，東側で検出した深さ0.5mの不整形で大きな土坑である。

竪穴式住居跡（YH）は，東側で検出したもので大部分は調査区域外にあるため，規模等については不明である。

遺　　物

黒褐色土層からは，弥生時代後期から奈良時代の遺物が出土した他，柱穴・土坑からも奈良時代の土師器・須恵器片が少量出土している。またNH_5の柱穴からは旧石器時代石器（サヌカイト片）が1点出土した。

所　　見

嶋上郡衙北部の遺構のあり方を知ることができた。とくに奈良時代の規則性のある大きな建物跡は，むしろ，郡衙に密接な関連をもつ建物と考えられる。また時期については，主軸が少し東に対し振れる傾向を示しているため史跡指定地内の建物群と比べると少し新しい時期を考えなくてはならない。（大船）

18.　嶋上郡衙跡（84－F地区）

所　在　地　　高槻市今城町164－19

調査面積　139.96㎡
調査期間　昭和51年12月17日～12月22日
調査経過
当該地は府立三島高校正門から東約150mの住宅地の西端にあたり，個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。
遺　構
層序は盛土（1.5m），耕土（0.2m）ですぐ下は黄褐色粘土（地山）である。遺構・遺物は，小範囲な調査であったが検出することができなかった。
所　見
この付近は府立三島高校を中心とする郡家今城遺跡と，本遺跡の南西部が接する地区であり，両遺跡の関係を知る上で重要な所である。しかし，今回の調査は，狭少なトレンチ調査であったため，南側一帯の遺跡の拡がりについて明らかにすることができなかった。（大船）

19. 嶋上郡衙跡（6－K地区）
所在地　高槻市清福寺町887
調査面積　132㎡
調査期間　昭和52年1月10日～1月28日
調査経過
当該地は式内阿久刀神社のすぐ南側にあたり，個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。
遺　構
層序は耕土（0.2m），床土（0.1m），黒褐色土層（0.1m），茶褐色含礫土（地山）である。調査地は狭少な面積であったが，弥生時代から平安時代までの多数の遺構が検出された。
平安時代の遺構は，すぐ南側で検出した石組み井戸に伴う10世紀前半の掘立柱建物跡で2間×2間の倉である。主軸の方向はN－7°－Eである。
奈良時代の遺構は，北東隅で検出した梁行2間の東西に長い建物がある。主軸の方向はN－6°－Wである。
古墳時代の遺構は，東西4.5mを測る竪穴住居跡3基である。いずれも形態・規模・方位とも同じと考えられるが，大部分が調査地区外にあるため，明らかでない。
遺　物
全体的に少なく，各柱穴・住居跡から細片が検出されている。
所　見
当調査区は，本遺跡の北部にあたり，弥生～平安時代にかけての遺構が最も密集する地域である。調査範囲が狭小なため各時代の建物の規模・性格については明らかに出来なかったが，周囲の調査結果とあわせて見るならば，郡衙関連遺構の北への拡がりを考える上で重要な資料といえよう。（大船）

20. 嶋上郡衙跡
所在地　高槻市清福寺町21－1
調査面積　46㎡
調査期間　昭和52年3月7日～9日
調査経過
当該地は式内，阿久刀神社の西約100mの芥川堤防上にあたり，個人住宅の建設に先立って，発掘調査を実施した。
遺　構
層序は盛土（2.5m）ですぐ下が黄褐色含礫土層の地山となる。以前，この周辺が竹林であったため，かなりの攪乱を受けており，遺物・遺構ともに認められなかった。
所　見
当調査区と平地との比高差は約3m余りあり，北西に続く丘陵地を削平して竹林となったことから，今回の調査では郡衙関連遺構を検出できなかった。（冨成）

21. 嶋上郡衙跡
所在地　高槻市郡家本町754－1
調査面積　92㎡
調査期間　昭和52年3月7日～9日
調査経過
当該地は史跡「嶋上郡衙跡」の北方にあたり，南平台丘陵から東にのびた微高地の南斜面に位置する。今回，農機具倉庫建設に先立って，調査を実施した。
遺　構
層序は盛土（0.15m），耕土（0.5m）ですぐに黄褐色色礫土層の地山になる。遺構，遺物ともに認められなかった。
所　見
今回の調査では，調査面積が狭小なため，遺構・遺物はまったく検出できなかったが，南平台丘陵がこの周辺で急な傾斜でもって落ち込み，ほぼ水平な地山面を形成することは南に分布する倉庫群の拡がりを予測せざるを得ない。（冨成）

22. 郡家今城遺跡
所在地　高槻市氷室町1丁目766－1・2
調査面積　1,336㎡
調査期間　昭和52年1月11日～1月19日

調査経過

当該地は府立三島高校の北西約５０ｍにあたり，北側は西国街道に接している。今回，個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

遺　　構

耕土（０.２ｍ）下，すぐに黄褐色粘土層（地山）になる。調査区の南東部に柱穴がみられるが，大部分は南側の調査地区外に拡がっていると考えられる。

遺　　物

柱穴から土師器・須恵器の細片が少量出土した他，径約１０cmの八花鏡の破片を南東隅の地山面上から検出した。

所　　見

西国街道の南側にあって，検出した遺構の分布状況から郡家今城遺跡の北西限と考えられる。また当調査区の東側では土壙墓群が検出されており，南側では溝で区画された住居地が検出され，奈良時代から平安時代の集落の拡がりを知ることができる。（大船）

23. 宮田遺跡

所在地　高槻市宮田町３丁目４２－１

調査面積　９０８㎡

調査期間　昭和５２年１月２０日～２月９日

調査経過

当該地は昭和４９年６月に女瀬川の旧河道と奈良時代の掘立柱建物群を調査した東側にあたる。今回，分譲住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（０.２ｍ），床土（０.４ｍ），黄褐色砂質土層（０.２ｍ），淡茶褐色粘土層（０.１５ｍ），黒色粘土層（０.１５ｍ），黄灰色粘土（地山）である。

調査区の西側で弥生時代中期の幅１ｍ・深さ１ｍのＶ字溝を検出した。調査区の大部分は，北西から南東方向に流れる女瀬川の旧河道である。幅約９ｍ・深さ約１.５ｍで何回にもわたって流路を変えている。

遺　　物

Ｖ字溝から弥生式土器片と石器が少数出土した。また旧河道の堆積層からは，土師器・須恵器の破片が多数出土した。

所　　見

本遺跡は西から東に向って延びた微高地上に位置しており，旧女瀬川もそれに沿って北側を流れていた。当調査区では，古墳時代の女瀬川が南方向に流れを変えた位置にあたり，氾濫原であるためか遺構は少ない。堆積層の出土遺物から，もう少し上流に古墳時代の集落の存在が予測される。（大船）

24. 富田遺跡

所在地　高槻市富田町４丁目２５１４－３

調査面積　３,７３５.２７㎡

調査期間　昭和５１年８月１３日～１０月１５日

調査経過

当該地は普門寺西側の旧富田小学校跡地にあたり，高槻市が公営住宅の建設を予定した。当該地が普門寺の旧境内地であったことから寺跡の遺構確認を目的に発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（０.２～１.５ｍ）ですぐ赤黄色土（地山）になる。

調査区のほぼ全域から弥生時代後期から江戸時代に至るさまざまな遺構を検出した。

〔弥生時代の遺構〕

調査区の南側に西から東へ走る大溝とその北側に方形周溝墓２基と西側の合計３基を検出した。大溝は幅約１０ｍ・深さ約２ｍである。今回，検出した遺構の中で最も古く，畿内第Ｖ様式の初めのものと考えられる。３基の方形周溝墓もこの大溝と同時期と考えられるが，後世の削平によって規模・年代・埋葬施設については不明な点が多い。

〔古墳時代の遺構〕

調査区の中央に方墳を１基，その西方にＳ字状溝１条を検出した。方墳は，一辺約１０ｍで濠幅約３ｍ・深さ約0.3ｍの周濠がめぐっている。埋葬施設は削平されているため検出することができなかった。時期は周濠内の出土遺物から５世紀末頃と考えられる。Ｓ字状溝は幅約２ｍ・深さ約0.3ｍで北から南に走る。時期は６世紀末頃である。

〔鎌倉時代の遺構〕

掘立柱建物跡は，調査区のほぼ全域にわたって分布している。これらの建物跡は３３棟発見されており，それぞれ東西南北に走る溝によって区画されたそれぞれの敷地内に存在する。この建物跡は、大別して３群から構成されていると考えられる。地山面が比較的高い西側では，家屋に庇のある大きな建物群が整然と並び，大きな敷地を有する。この敷地は溝によって区画されているが，その広さは明らかでない。なお，南北の溝によって区画されている幅は約２２ｍである。また，地山面が徐々に低くなる東南一帯には，西側の建物と比べて明らかに小さな１間×１間の建物が密集し，建物が同じ場所でかなり建替えを行ったと考えられる。これら東南側と西側の建物群との間には２間×２間の倉庫群が存在する。

井戸は東南側一帯の小さな建物群の中程に3基，接近してあり，その規模は直径約1～2m・深さ約1.5mの素掘りの井戸である。

土坑墓は井戸の東西に1基ずつを検出した。規模はいずれも幅0.6m・長さ1.2mである。深さは土坑墓1が0.05m，土坑墓2が0.3mを測り，土坑墓2からは副葬品として白磁碗1，瓦器椀1，土師器皿5が出土している。

〔江戸時代の遺構〕

調査区の東側でコ字状の溝と瓦窯を検出した。溝は幅約2m，深さ約1.5mでさらに東方に続く。溝内からは，江戸時代後期の瓦片が出土している。一方，調査区のほぼ中央で検出した瓦窯は俗称「ダルマ窯」と呼ばれ，焚口が左右2ケ所にあって両方から同時に燃焼させたものである。床はロストル式になっている。窯体の規模は長さ4.8m・幅2.6mであり，窯壁は瓦片と黄色粘土で固められている。なお，この焚口側には灰と炭とが混入した落ち込みが認められた。

遺　　物

溝，柱穴，土坑墓，井戸などから出土した弥生式土器，土師器，須恵器，瓦器，瓦等がある。特に鎌倉時代の遺物が多く，日用雑器である瓦器椀，土師皿，瓦器堝，釜，青白磁がある。特に注目されるものに直径9cmの仿製八稜鏡と土坑墓内から出土した白磁碗がある。

所　　見

今回調査した富田遺跡は，弥生時代後期から現在に至るまで連綿と続く複合遺跡である。市街地の南側に位置する富田地区は，発掘調査が一度も実施されたことがなく，現在に至っているが，それだけに今回の調査は淀川北岸の歴史を解明する上で貴重な資料を加えることができたといえよう。特に調査区の全面にわたって検出した鎌倉時代の遺構は，最近の大規模な発掘調査によって類例を重ねつつあるが，中世における集落のあり方を考える上で重要な資料である。（大船）

25. 富田遺跡

所　在　地　　高槻市富田町4丁目2522

調査面積　　61.46m²

調査期間　　昭和51年11月6日

調査経過

当該地は普門寺の南で，8月に実施した市公営住宅建設地に隣接している。今回，個人住宅の建設が予定されたため，調査を実施した。

遺　　構

当該地の西隅と中央南側との2ケ所に小さな試掘溝を設定して行った。

層序は盛土（0.3m），耕土（0.2m），床土（0.1m）茶褐色土層（0.15m），黄褐色土層（地山）となる。西隅に設けた試掘溝では，東西に走る溝と柱穴を検出した。調査区が狭少なため，遺構の性格は明らかでない。なお，東西に走る溝からは鎌倉期の瓦器椀等が出土している。

遺　　物

鎌倉期の日用雑器類である瓦器椀，羽釜，土師皿，白磁碗，青磁碗等がある。

所　　見

北に隣接する公営住宅地での調査結果も合せて，南一帯には鎌倉時代の集落が拡がっていると考えられる。（冨成）

26. 富田遺跡

所　在　地　　高槻市富田町4丁目

調査面積　　2,000m²

調査期間　　昭和52年2月12日～2月25日

調査経過

当該地は昭和51年8月に発掘調査した北側の市立富田幼稚園跡にあたり，普門寺のすぐ西側である。今回市立青少年センターの建設が予定されたため発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（0.1m）赤黄色粘土（地山）になる。

鎌倉期の建物跡・溝と古墳時代中期の方墳・土坑を検出した。建物跡は桁行5間の南北に長い建物で梁行が調査区域外にあたるため，規模は不明である。溝は幅約0.4m・深さ約0.1mの南北溝4本と短い小溝であるが，大部分は園舎の基礎によって攪乱されている。調査区の北東部に一辺約10mの方墳を検出した。濠は約2～2.5m・深さ約0.2～0.5mで，北濠は攪乱されていて不明である。この方墳の北側にもう一つの方墳を検出したが大部分が調査区域外にあるため規模は不明である。土坑は方墳の南側にあり不整形なもので，遺物等はない。

遺　　物

鎌倉時代の瓦器・土師器・須恵器片が少数みられ，古墳時代のものは方墳の濠から土師器・須恵器片が若干出土したのみである。

所　　見

昭和51年夏の調査区の北に隣接した当調査区において，新しく古墳時代中期の方墳を，また鎌倉期の集落の北限を確認し得たことは，本遺跡の拡がりが，丘陵端部にあたることを示す重要な資料である。（大船）

27. 上氷室遺跡

所　在　地　　高槻市氷室町４丁目５１３他６筆

調 査 面 積　　３２００m^2

調 査 期 間　　昭和５１年７月２６日～１０月３１日

調 査 経 過

当該地は史跡・今城塚古墳の西方にあたり，女瀬川の河川改修工事が計画されたため，遺跡確認調査を実施した。この調査の結果，鎌倉期の瓦器椀等が出土し，周辺に遺構の存在が推定されたため，調査を実施した。なお，調査は女瀬川改修関連遺跡調査会が行った。

遺　　構

当調査区は北西から南東方向に大規模な試掘溝を設定した状況で，遺跡の拡がりについて明らかにしうると考えられた。しかしながら，遺構はほとんど検出し得なかった。ただ調査区の南端で土坑墓１基を検出した。土坑墓は長辺0.8 m，短辺 0.4 mの長方形を呈しており，遺物は認められなかった。

調査区の中央より北側にかけては，自然の流路があり，堆積層である砂層内に瓦器椀等が混入していた。

所　　見

出土した遺物から，周辺に遺構の存在が考えられるが，南端で検出した土坑墓等から，あまり広くない範囲に集落を考えねばならないだろう。（冨成）

28. 芥川城跡

所　在　地　　高槻市殿町６４・６９

調 査 面 積　　3,０８４m^2

調 査 期 間　　昭和５１年１１月２９日～１２月９日

調 査 経 過

当該地は日本専売公社高槻工場のすぐ西側にあたり，スイミングスクールの建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（ 0.4 m），耕土（ 0.3 m），床土（ 0.15 m），茶褐色土層（地山）である。

調査区の北東部に多数の柱穴と土坑，中央西側で径約 0.7 m・深さ約 1.2 mの石組み井戸１基，南側で柱穴と昭和の初期まで使用された給水管２本があり，通称「ボンボコ」と呼ばれている。

柱穴群は，大部分が調査地区外に拡がっており，建物にまとまるものはなかった。さらに南側は芥川の氾濫を示す砂の厚い堆積層があって，遺構面を流失している。給水管は瓦質のもので径１０～１５cm・長さ約３０cmの大きさのものを連結していた。掘り方は床土面からおこなわれ，江戸時代に属するのか疑問である。

遺　　物

中世の井戸・柱穴・土坑から，瓦器・土師器・須恵器・磁器片を少数検出した。その他給水管である瓦質の円筒管が多数ある。

所　　見

戦国時代の武将三好長慶で有名な芥川城は，その所在地が摂津峡の城山と芥川宿の殿の内の２ケ所に推定されており，城山の方が城郭として有望視されている。

今回の調査で検出した遺構は，中世の集落跡と給水管だけであり，芥川城に関するものはなかった。（大船）

29. 安満遺跡（１９－L地区）

所　在　地　　高槻市大字下７５番地の３

調 査 面 積　　８２m^2

調 査 期 間　　昭和５２年４月２１日

調 査 経 過

当該地は昭和４７年に調査された９地区の方形周溝墓群から約１５０m南側である。住宅兼店舗建設に先立って調査を実施した。

遺　　構

耕土・床土を除去すると青色の砂礫・粘土層が厚く堆積しているのを確認したが，遺構・遺物はまったく検出されなかった。

所　　見

青色の砂礫・粘土層は桧尾川の旧流路か，氾濫による堆積と考えられ，中世集落の南の限界を示す資料といえよう。（橋本）

30. 安満遺跡（８－O・P，９－M・N・O地区）

所　在　地　　高槻市高垣町２６５番地他５筆

調 査 面 積　　３，４０６m^2

調 査 期 間　　昭和５２年１１月２８日～１２月２３日

調 査 経 過

当該地は昭和４７年に調査した方形周溝墓群の南側約50 mと，昭和５１年末に調査した８－M・N地区の東側一帯である。今回，分譲住宅の建設が計画されたため，調査を実施した。

遺　　構

農業用水路の関係で西・中央・東区の三つに分割して調査を実施した。

西区では西側半分は遺物包含層もまったく悪く，遺構もまったく検出されない。東側の水路近くでわずかに遺物包含層がみられ，掘立柱建物１棟と土坑墓３基を検出した。

掘立柱建物跡はほぼ東西方向で1間（柱間2.0ｍ）×2間（柱間2.2ｍ）である。

土坑墓には幅0.65ｍ・長さ1.6ｍ・深さ0.1ｍの長方形を呈するものと，直径1.5ｍ・深さ0.5ｍでほぼ円形を呈するもの，長さ2.2ｍ・幅1.1ｍ・深さ約0.6ｍを測る不整形のものがある。

中央区は全面にわたって旧桧尾川の流路らしく，床土のすぐ下から砂礫層が厚く堆積していて，遺構は確認できない。

東区では掘立柱建物3棟と井戸2基，および土坑墓2基を検出した。

掘立柱建物跡は調査地区南側で検出されたものでほぼ南北方向である。規模は南北3間（柱間2.2ｍ）×東西1間（柱間2ｍ）以上である。西側に庇を有し，庇の柱間はそれぞれ2ｍである。他の2棟は上記の建物の約7ｍ北側に位置するもので，その内の1棟は倉庫とおもわれ，2間×2間で柱間は2ｍを測る。他の1棟は倉庫と重なり東西2間，南北1間で柱間はそれぞれ1.8ｍ，1.7ｍを測る。これらの建物の西側に素掘りの井戸1基を検出した。ほぼ円形を呈し直径約1.2ｍ・深さ0.9ｍを測る。また，西北側に長さ1.1ｍ・幅0.6ｍの長方形土坑墓を検出した。その他，石組の井戸1基と土坑墓1基を検出した。石組の井戸は直径75cm・深さ1.4ｍを測る。土坑墓は長さ1.1ｍ幅0.9ｍ・深さ0.3ｍで内部に骨片がみられた。

遺　　物

平安時代末から鎌倉時代にかけての瓦器・土師器・陶磁器が出土している。土坑墓から出土した土師器小皿は底部に小孔をあけていた。また，井戸から土師器小皿の一括資料が検出された。

ピット内や整地層からは中国製の青・白磁や唐津焼の破片が出土している。

所　　見

今回の調査では，西区の中ほどから西へは中世集落が拡がっていないのが確かめられた。また，調査地区の北西隅に古式土師器を含む包含層がみられ，古墳時代の集落の拡がりの限界も推定される。（橋本）

31. 郡家本町遺跡

所 在 地　高槻市郡家本町９２５－３

調査面積　１６５㎡

調査期間　昭和５２年７月１９日

調査経過

当該地は嶋上郡衙跡の西北部にあたる。この地域の実態は必ずしも明確ではなく旧石器や弥生式土器等の出土が伝えられているに過ぎない。今回，個人住宅の建設が計画されたため調査を実施した。

遺　　構

竹籔と建物基礎のため攪乱が著しく，遺構は検出できなかった。なお，層序は整地層（0.05ｍ）・黄灰色土（0.3ｍ）・黄灰色砂礫土（地山）である。

遺　　物

土師器破片を若干検出したのみである。

所　　見

この周辺に集落のあることが想像されるが，この地区の調査では手がかりとなる資料は得られなかった。（橋本）

32. 郡家本町遺跡

所 在 地　高槻市郡家本町１５６７－２

調査面積　５２４.９６㎡

調査期間　昭和５３年１月１３日

調査経過

当該地は市立第2中学校グラウンド東側にあたる。この付近では，これまでに明確な遺構については確認されていないが，第2中学校グラウンド内から弥生式土器などが出土しているという。今回，建設会社々員寮の建設が計画されたため調査を実施した。

遺　　構

社員寮建設予定地の中央部に幅2ｍ，長さ約7ｍのトレンチを設けたところ，遺構・遺物はまったく検出されなかった。しかし，地山上に暗褐色土層が約0.2ｍ堆積しており，付近に集落跡があるとおもわれる。

なお層序は，盛土（0.6ｍ）・青灰色土（0.2ｍ）・黄灰色砂質土（0.15ｍ）・暗褐色土（0.2ｍ）・黄褐色砂礫（地山）である。

所　　見

地山上に堆積する暗褐色土は嶋上郡衙跡などでは多量の遺物を包含するもので，今回の調査で遺構・遺物が検出されなかったのが不自然なくらいである。さきに調査を実施した地区（７月１９日調査）でも若干の遺物が検出されているのとあわせて，南平台丘陵の裾部に集落があると想像されるが現段階では明確な資料は得られていない。（橋本）

33. 中城遺跡

所 在 地　高槻市昭和台町２丁目２５－１２

調査面積　９１５０㎡の一部

調査期間　昭和５２年９月２日

調査経過

中城遺跡は富田礫層によって形成された丘陵の縁辺部に

位置し，従来より，弥生式土器の散布するところとして知られていた。今回，慶瑞寺の庫裡拡張に先立って，遺構・遺物の状況を確めるべく，試掘調査を実施した。

遺　　構

層序は表土（ 0.17 m ），淡茶灰色土層（ 0.5 m ），茶灰色含礫土層（ 0.6 m ），茶褐色礫層（地山）となる。淡茶灰色土層は今様の瓦を多く含む整地層である。遺構は検出されなかったが，茶灰色含礫土層は良好なものであった。

遺　　物

茶灰色含礫土層（遺物包含層）から陶器細片を検出した。

所　　見

当該地区は以前慶瑞寺の渡り廊下のあったところで，上層部はかなりの攪乱をうけている。しかし下層部から検出した包含層はほとんど遺物を出さなかったものの，良好な遺存状態を示していることから，周辺での遺構存在が推定できる。（森田）

34. 今城塚古墳

所　在　地　　高槻市郡家新町所在

調 査 面 積

調 査 期 間　　昭和５２年７月２８日～８月１３日

調 査 経 過

史跡今城塚古墳の後円部背後の周濠は郡家地区の農業用水溜池として利用されてきたが，最近漏水が激しく，このまま放置すると古墳の外堤が決壊する恐れが生じたため，国庫補助金の交付をうけて外堤（後円部のみ）の修築を行うことになった。

修築工事は市水政部水政課に依頼したが，できるだけ現状を維持することで工法等の打ち合わせを行い，工事着手に先立って古墳築成時の遺構・埴輪列の有無について資料を得るために調査を実施した。

遺　　構

調査は外堤に４本のトレンチを設定し，さらに内堤と外堤との渡土堤に３本のトレンチを設けた。

各トレンチの基本的な層序は，表土下に廃棄物や粘土をまじえた攪乱土や二次的な盛土がみられ，この下層に黄色あるいは黄灰色粘土の地山を検出した。

いずれのトレンチからも，古墳築成に関する遺構や埴輪列はまったく検出されなかった。

遺　　物

円筒埴輪破片若干

所　見

外堤の内外は濠や周囲の溝によってかなり浸食されていることが明らかで，築成時の形態よりかなり変化していることが考えられる。築成時の詳しい形態等について資料を得るまでにはいたらなかった。（橋本）

35. 塚脇Ｘ－１号墳

所　在　地　　高槻市塚脇１丁目３１４－２外

調 査 面 積　　３５０m^2

調 査 期 間　　昭和５２年６月３日～７月１１日

調 査 経 過

塚脇古墳群は帯仕山の山頂から山裾にかけて，四十数基の古墳が分布している。そのほとんどが，南斜面および，山裾を流れる谷川沿いにある。今回，調査した古墳は，現在までまったく不明の古墳で，個人住宅の建設を進めるにあたり，土地造成中に横穴式石室の一部が発見され，所有者の川上氏の協力を得て，緊急発掘調査を実施したものである。

遺　　構

塚脇Ｘ－１号墳は，帯仕山の南斜面，標高５０ｍのところにあって，径１２ｍの円墳である。主体部は両裾式の横穴式石室で，石室の全長 7.5 m，玄室長 3.5 m，幅 1.4 m，羨道長 4 m，幅 1 mを測る。床面には，小石を敷き並べたところとすこし大きめの石を敷き並べたところが認められた。この敷石上には棺台に用いられたと考えられる人頭大の石があり，木棺に用いられた鉄釘をその周辺で検出した。鉄釘の遺存状況から，玄室内に埋葬された被葬者は３体以上，羨道部分に埋葬されたものが１体と考えられる。石室入口から約１ｍ余り羨道に入ったところには閉塞石がある。

石室の遺存状態は良く，天井石が石室内に落下しているものの，築造時の状態に復原しうるものであった。玄室の天井石は４枚，羨道部分は１枚であった。空濠は北に続く斜面部分のみ認めた。石室の床面から天井石内面まで約2.4 mを測り，石室構築面はかなりの傾斜があるため，奥壁部分の地山面は石室高のほぼ$\frac{2}{3}$まで掘り下げられていて，斜面をうまく利用して築造されたものと考えられる。

なお，排水溝は認められなかった。

遺　　物

玄室内からは鉄釘，金環２セット，（太いものと細いものがある。）須恵器片，土師器片が出土した。羨道内からは鉄釘，須恵器片土師器・甕が出土している。

所　　見

石室内から出土した遺物および石室の規模・形態から７世紀初め頃と推定される。

なお，当該古墳は現地での保存が困難なところから，市立埋蔵文化財調査センターにおいて移築復原を行い，文化財保護思想の普及に役立てたいと考えるものである。（冨

成）

36. 氷室塚古墳

所　在　地　　高槻市氷室５９０－６

調査面積　　１３５.２７㎡

調査期間　　昭和５２年１１月１１日

調査経過

当該地は氷室塚古墳の墳丘のすぐ北側にあたり，個人住宅の建設に先立って，発掘調査を実施した。調査は３ｍ×４ｍのトレンチを敷地中央部に設定して，層序の観察をおこなった。

遺　　構

層序は，盛土（０.２ｍ），黄褐色土層（０.５ｍ），青灰色粘土である。周囲の状況から想定して，濠の中央部であろうと考えられる。

遺　　物

遺物はまったく出土しなかった。

所　　見

現在，氷室塚古墳は市街地になっており，形状・規模・時期等については一切不明である。しかし，すぐ東側には史跡今城塚古墳・前塚古墳が立地し，南平台丘陵の弁天山古墳群を含めた王権の系譜を考える場合，どうしても欠かせない位置を示している。今回の調査は，濠が墳丘の周囲をめぐっていたと考えられる資料である。（大船）

37. 二子山古墳

所　在　地　　高槻市上土室町所在

調査面積　　７６㎡

調査期間　　昭和５２年１２月１２日～５３年２月７日

調査経過

当古墳は現継体天皇陵北側に位置する墳丘全長約４０ｍの前方後円墳で，墳丘のみ宮内庁陵墓参考地となっている。昭和３４年名神高速道路建設に伴なう発掘調査が行なわれた。その結果，墳丘は現況より縮少していることが判明した。今回，大阪府営水道拡張事業にともない，本管埋設のためのピットが当古墳の濠と考えられる地点に予定されたところから，事前に試掘調査を実施し，調査結果をもとに工事用ピットの規模を決定することになった。調査は財団法人大阪文化財センターが実施した。

遺　　構

前方部北側の墳丘裾と周濠，および，後円部側周濠の肩が確認された。

遺　　物

円筒埴輪破片・家型埴輪破片・朝顔形埴輪破片・須恵器片が出土した。

所　　見

部分的な調査ではあったが，当古墳の前方部前面幅がおよそ３０ｍ程の規模であることが判明した。

38. 土保山古墳

所　在　地　　高槻市土室町所在

調査面積　　４０㎡

調査期間　　昭和５２年１２月１２日～５３年２月７日

調査経過

当古墳は名神高速道路建設にともない消滅したが，周濠は未調査である。今回，二子山古墳と同じ経過で，大阪文化財センターが調査を実施した。

遺　　構

古墳時代遺構面に小溝と小ピットを検出したが周濠は確認できなかった。

遺　　物

円筒埴輪破片が出土している。

所　　見

土保山古墳北側にある里道の西側部分で周濠が検出出来ると思われたが，周濠のほとんどは名神高速道路下にあると考えられる。

39. 嶋上郡衙跡

所　在　地　　高槻市川西町１丁目９６２・９７１－１

調査面積　　７９７㎡

調査期間　　昭和５２年４月２１日～５月２７日

調査経過

当該地は市立川西小学校の東側にあたり，分譲住宅の建設が予定されたため発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（０.８ｍ），耕土（０.１ｍ），床土（０.２ｍ）黒褐色土層（０.７ｍ），茶褐色土（地山）である。

検出した遺構は，不規則で不整形な土坑墓多数と，柱穴を検出した。土坑墓は長径１～３ｍ・深さ０.１～０.８ｍとさまざまで，規模・方向・形態等あらゆる点について規則性は認められない。

遺　　物

土坑墓・柱穴等の遺構からは，遺物の出土はなかった。わずかに北東部の黒褐色土層から須恵器の甕・杯と土師器片が少量出土した。

所　　見

当調査区周辺では，弥生時代中期からの墓地群が形成され，これまでの調査においても遺物の出土しない土坑墓群

が，方形周溝墓とともに検出されているところから，今回の調査で検出した多数の土壙墓は，方形周溝墓の周辺に埋葬された同時期のものと考えられる。調査区の北東部にまとまった状態で認められた柱穴は，５世紀末頃の時期のものと想定される。（大船）

40. 嶋上郡衙跡

所　在　地　　高槻市清福寺町５－１３

調 査 面 積　　１３４．２１㎡

調 査 期 間　　昭和５２年４月２５日～４月３０日

調 査 経 過

当該地は史跡「嶋上郡衙跡」のすぐ東側にあたり，個人住宅の改築が予定されたため，発掘調査を実施した。トレンチは基礎をよけて中央部に４ｍ×６ｍの範囲で土層の観察・遺構の有無を調査した。

遺　　構

層序は，盛土（０.４ｍ），耕土（０.１５ｍ），床土（０.１５ｍ），黒色土層（０.２５ｍ），茶褐色土（地山）である。

検出した遺構は，径２０～４０cmの小さな柱穴１２個と長さ１.４ｍ・幅０.７ｍ・深さ０.２ｍの土壙１基である。

遺　　物

柱穴から弥生式土器，土師器，須恵器の破片が若干出土した他，黒色土層からも土師器・磁器が少数出土した。

所　　見

調査範囲が狭少なため，明確な遺構を検出することができなかったが，郡衙関係の遺構が東方に拡がっていることを予測させる資料であろう。（大船）

41. 嶋上郡衙跡

所　在　地　　高槻市郡家新町２４９

調 査 面 積　　１，３６８㎡

調 査 期 間　　昭和５２年５月１０日～６月２８日

調 査 経 過

当調査地区は神郡社の南約１５０ｍにあたり，すぐ南側を西国街道が通っている。当該調査区のすぐ西南方では旧山陽道が検出されていて，小字名が高津であるところから郡衙と何らかの関係がある地域ではないかと考えられてきた。今回，露天駐車場が設置されることになったため，発掘調査を実施した。

遺　　構

耕土，床土を除去するとすぐに遺構が検出される黄褐色の粘土層となる。検出された遺構には古墳の濠，土壙墓，山陽道の北を画する溝および整然とした東西方向の溝，さらに井戸がある。

古墳の濠は調査区南側で検出されたもので，古墳の西北部分にあたる。濠の深さは約０.３ｍ，幅は４.５～７ｍを測り，一部分しか検出できなかったため，墳形は明らかでない。

この古墳の北側一帯に土壙墓があり，３５基以上を認めた。１０基程度で一群を形成するようである。土壙墓の規模は大きいもので，長さ４ｍ・幅１.７ｍを測る。深さはいずれも０.１～０.２ｍ程度を測り，共に，遺物がほとんど検出されないため，時期は明確でないが，狐塚古墳群や嶋上郡衙跡等でみられるように，今回検出した古墳と同時期のものであろう。

古墳と重複して山陽道の北側を画する溝が層位を異にして２条検出された。２条の溝の内，新しいものは幅１ｍ・深さ０.１ｍを測り，黄褐色の砂礫が堆積している。西南方で検出されている溝とつながるものと考えられる。一方，時期の古いものも，幅・深さともにほぼ同規模で北に約２ｍ程かたよっている。なお，この２条の溝は現条理と約２３°の振れを示す。

井戸は調査区の北西部で検出した。径１.１ｍ・深さ１.２ｍを測り，素掘りで円形を呈している。井戸内から古式土師器が出土している。土壙墓群に近い時期のものであろう。

この井戸のすぐ北側には幅２ｍ，深さ約１.２ｍで東西に走る溝があり，この溝底は部分的に浅くなり，調査区内でも２箇所が浅くなっている。溝内からの遺物はほとんど検出されず，時期については明確さを欠く。方向は東西方向に対し，約５°方向を異にする。

遺　　物

古墳の濠内から須恵器，埴輪が出土している。また，土壙の埋土内からナイフ形石器１点を検出した。

所　　見

藤沢一夫氏は最近の論著で嶋上郡衙の郡庁の位置を当調査区のすぐ北側の水田に比定されているが，今回の調査では直接郡庁と関連する遺構・遺物は検出されなかった。ただ，調査区北側で検出した溝は嶋上郡衙のこれまでの調査では例をみないものであり，今後の調査に課題を残した。

今回の調査では，山陽道の北を画する溝が検出されたが，前後２回以上山陽道がつくりかえられていることを示す資料といえる。

また，郡衙成立を知るうえで，古墳と土壙墓群の検出は重要な資料といえる。（橋本）

42. 嶋上郡衙跡（２８－Ｏ地区）

所　在　地　　高槻市清福寺町８３１－１

調 査 面 積　　５７７．６㎡

調査期間　昭和52年5月27日～7月8日

調査経過

当該地は史跡「嶋上郡衙跡」の約80m東側にあたり，個人住宅の建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　構

層序は，耕土（0.2m），床土（0.2m），整地層（0.1m），暗褐色土層（0.5m），茶褐色土層（地山）である。

調査区の南側で幅約2.4m・深さ約0.4mの古墳時代後期の東西溝と，調査区の西側で平安時代の建物跡2棟および南北溝2本を認めた。建物跡は，その方向が，磁北に一致するものと東に約8°振るものとがあり，同一場所で重複している。大部分は調査地区外にあり，規模等については不明である。南北溝は2本ともほぼ磁北に一致し，溝内から10世紀前半の黒色土器が出土した。

遺　物

平安時代の建物跡の柱穴・南北溝からは，黒色土器・土師器・須恵器が若干出土した。古墳時代の東西溝からは，小範囲の調査であったが多数の須恵器の蓋杯が土師器片とともに出土した。一方，暗褐色土層は芥川の旧氾濫原の堆積層であって，上流から流されてきた弥生式土器，土師器，須恵器がその中から多数出土した。

所　見

当調査区附近は，6世紀頃に古墳時代の集落が芥川沿いに形成されたらしく，周辺での調査の結果からも，それを証明しうる資料がある。また，郡衙関連遺構に関する新しい知見は得られなかったが，それなりに東側の建物群の拡がりを限ることができた。10世紀前半の建物群は，本遺跡北側でも数多く検出されており，律令制度崩壊後の遺跡のあり方を考える上で重要である。（大船）

43. 嶋上郡衙跡（74－D・H地区）

所在地　高槻市郡家新町159－1・2

調査面積　804m²

調査期間　昭和52年7月25日～8月11日

調査経過

当該地は市道辻子・下ノ口線と西国街道が交差する地点から南西約150mのところである。今回，分譲住宅が予定されたため発掘調査を実施した。

遺　構

層序は，耕土（0.15m）ですぐに黄褐色粘土（地山）になり，床土・包含層はなかった。検出した遺構は，方形周溝墓1基と方墳2基および土坑墓2基である。

方形周溝墓は，調査区の北東部で検出したもので，一辺5mを測る。周溝はコの字状で幅1.2m・深さ0.1mである。

1号方墳は，西側で濠の一部を検出したのみで，大部分は調査区域外にあり，規模・時期については不明である。

2号方墳は，調査区の南側で検出したもので，東濠のみが調査区域外にある。規模は一辺11mで，南辺に幅5m・長さ4mの造り出しがあり，周囲には幅4m，深さ0.2～0.5mの濠がめぐる。

1号土坑墓は，1号方墳の東側で検出されたもので，長辺24m，短辺11m，深さ0.25mを測り，底面はほぼ水平である。方向はN－30°－Eである。なお，南東隅に須恵器の蓋杯をセットで副葬していた。2号土坑墓は，2号方墳の西側で検出したもので，長径2.1m・短径1.3m・深さ0.2mの長円形を呈し，底面は舟底形である。方向はN－15°－Eである。

遺　物

方墳の濠からは，須恵器，土師器，埴輪の破片が多数出土した他，1号土坑墓より須恵器の蓋杯がセットで出土した。

所　見

山陽道から南側一帯では，集落群を推定する遺構が少なく，むしろ墓地群が拡がっていた可能性が強い。本年度調査した65－G地区でも山陽道の下から古墳が検出されている。また，弥生時代の方形周溝群も，本調査区の南側で検出されており，弥生時代中期からの墓域であったことが想定される。（大船）

44. 嶋上郡衙跡

所在地　高槻市川西町1丁目972－8

調査面積　98.34m²

調査期間　昭和52年11月14日

調査経過

当該地は，市立川西小学校の南にあたり史跡「嶋上郡衙跡」に隣接するところである。今回，工場増設に先立ち調査を実施した。

遺　構

層序は盛土（0.2～0.5m），耕土（0.15m），淡茶褐色土層（0.3m）〔一部〕，灰緑色土層（0.1～0.2m）〔一部〕，灰褐色砂質（0.1～0.3m），暗褐色土層（0.2～0.3m），青灰色粘土層（地山）となる。断面観察によると，調査区の北よりのところで，耕土の段差（0.3m）があって，南側が低い。また，調査区の北端では，暗褐色土層を掘り込んだと考えられる溝状遺構（溝中は灰色砂層）を検出した。

遺　　物

遺物は出土していない。

所　　見

地山上で検出した暗褐色土層は，周辺部分の調査結果から，弥生～古墳時代の遺物包含層と認定できうる。とすれば，検出し得た溝状遺構は，古墳時代以降ということになり，山陽道の南の側溝と考えるのが妥当であろう。（森田）

45. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市郡家新町１６１

調 査 面 積　４７６m^2

調 査 期 間　昭和５２年１１月１５日～１２月５日

調 査 経 過

当該地は嶋上郡衙跡の西南部にあたり，８月に方墳等を検出した７４－D・H地区の北東に隣接する。今回，個人住宅建設に先立ち発掘調査を実施した。

遺　　構

厚さ 0.2 mの耕土下は灰褐色粘土層の地山で，遺物包含層や整地層の類はみとめられなかった。遺構は，明治～大正時代にかけてのダルマ窯２基，井戸１基，および窯にともなう粘土こね用の土坑３基を検出した。さらに，瓦用粘土を採取した痕と思われる落ち込みが認められた。ダルマ窯はいずれも基底部のみ遺存し，内部は，瓦片，窯壁片がつまっていた。おそらく窯廃絶後に削平されたものであろう。１号窯は長径 5.65m，短 2.55 mを測る。２号窯も１号窯とほぼ同じ規模である。井戸は１辺 0.9 mの方形で，枠には，１２枚の板材を用い，それらを上下２段の横木で固定している。掘り方は一辺約 1.9 mを測る。

遺　　物

窯体内から出土した瓦類が主なもので，他にみるべきものはない。

所　　見

今回，検出したダルマ窯は，昭和５１年富田遺跡で検出したものと同じものであるが，窯場の構成要素である井戸遺構と伴って検出したことに意義があろう。この調査区の北側を通る旧西国道沿いには，昭和初頭まで，小規模な瓦窯が営まれていたといわれてきたがその実体は不明であった。今回の調査は，それを検証しえたことと同時に，近郊地域における近代窯業を考えるうえで，貴重な資料を提供することになろう。なお，郡衙関連遺構は認められなかった。（森田）

46. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市郡家新町２３３－１１

調 査 面 積　８０.５４８m^2

調 査 期 間　昭和５２年１１月１８日～３０日

調 査 経 過

当該地は嶋上郡衙跡の西南方にあたり，昭和５０年９月大阪府教育委員会によって，弥生時代の方形周溝墓を検出した地区の東６０mの地点である。今回，個人住宅の建設に先立ち，調査を実施した。

遺　　構

層序は盛土（ 0.6 m），耕土（ 0.25 m），床土（0.15 m），暗黄灰色粘質土層（ 0.15 m），淡黄灰色粘土（地山）となる。

暗黄灰色粘質土層から，わずかに土器の細片を検出したものの，遺物包含層といえるほどのものではない。また地山面においても，遺構は認められなかった。

遺　　物

土師器系の細片と考えられるが，器形，時期等は不明。

所　　見

調査範囲が狭少であったためか，郡衙関連遺構はもとより，弥生時代の遺構等をも認められなかった。当該地は嶋上郡衙跡と郡家今城遺跡の中間に位置しながらも，どちらの集落にも含まれない外辺地域と考えられる。（森田）

47. 嶋上郡衙跡

所 在 地　高槻市郡家新町３６０

調 査 面 積　１，１３７m^2

調 査 期 間　昭和５２年１１月２８日～１２月２７日

調 査 経 過

当該地は，史跡「嶋上郡衙跡」の西南方約３００mのところで，旧西国街道の北側約３０mに位置する。今回，駐車場造成に先立ち，発掘調査を実施した。

遺　　構

まず最初に遺構の有無を確かめるべくトレンチ調査を実施した。トレンチは南北３０m・幅 1.5 mである。層序は耕土（ 0.15m），灰褐色粘土層（地山）であるが，南半分は幾分か攪乱をうけていた。また北側では灰褐色粘土層上に，灰褐色砂層の間層が部分的にみとめられた。調査区の北端で，灰褐色砂層下からサヌカイト製の舟底形尖頭器および剝片を検出した。このため，調査区の北部を東西10 m，南北６mにわたって拡張したところ，およそ東西５m・南北５mの範囲にわたって石器および剝片の散らばりが認められた。その西側からは，こぶし大の石で構成された炉跡状の遺構を検出した。

遺　　物

サヌカイト製のナイフ形石器１点，舟底形尖頭器３点，

掻器１点，剝片（チップを含む）６００点余，および礫（チャート・その他）１，０００点以上を検出した。その他に攪乱層から，土師器・須恵器片が出土している。

所　　見

今回検出した多数のサヌカイトの剝片は，長さ２cm未満のものが圧倒的に多く，長さ数mmというのも少なくない。そして，これらの剝片は，多くの礫とともに，一様な平面で検出しており，若干の舟底形尖頭器の製品，半製品を伴出することも考え合わせると，この剝片の拡がりを石器製作址と考えるに充分である。また５ｍ×５ｍという剝片の拡がりは，昭和４９年に調査した郡家今城遺跡の１単位の拡がりと近似していることも興味深い。ところが，郡家今城遺跡の石器が国府型ナイフ形石器を主体とするのに対し，今回の調査では，国府型ナイフ形石器はもとより，翼状剝片の断片をも検出しなかった。なお，当該調査区の調査は，５３年度も引き続いて，調査を実施する予定であるので，遺構の性格等については，今後に期待される。（森田）

48.　郡家今城遺跡

所　在　地　　高槻市氷室町１丁目７７１－１

調査面積　　２００㎡

調査期間　　昭和５２年７月４日～７月６日

調査経過

当該地は府立三島高校の西北にあたり，郡家今城遺跡の西北への拡がりが不明確である。今回，住宅建設に先立って調査を実施した。

遺　　構

調査区の中央部に１ｍ×３ｍの試掘坑を設けたところ若干の遺物を検出したが，遺構は認められなかった。

なお，層序は耕土（０.１ｍ）・黄灰色土（０.１ｍ）・暗褐色土（０.０５ｍ）・黄色土（地山）である。

遺　　物

暗褐色土層から黒色土器・土師器破片若干を検出した。

所　　見

郡家今城遺跡の西北への拡がりを確認することができた。

（橋本）

49.　梶原寺跡

所　在　地　　高槻市梶原１丁目１３８３

調査面積　　１，４３７㎡

調査期間　　昭和５２年９月７日～１１月１１日

調査経過

梶原寺跡は安満山東南麓に位置し，旧西国街道に面している。以前から畑山神社を中心に古瓦が広く採集されていたが，これまで発掘による調査はおこなわれておらず，その実体は不明であった。今回，私立保育所建設に先立って発掘調査を実施した。

遺　　構

調査の結果，鎌倉時代後半を中心とする遺構面（生活面）と奈良時代を中心とする遺構面が上下に検出され，複合遺跡であることがわかった。奈良時代の遺構としては，掘立柱建物跡４棟および柱穴列がある。なかでも東よりで検出した２間（柱間２.７ｍ）×７間以上（柱間２.８ｍ）の南北に細長い建物跡は，一辺１ｍ以上の柱穴からなっており，郡衙中心域の建物跡の柱穴と匹敵するものである。また，柱穴の１つには径０.３８ｍの柱根を検出していることなど，奈良時代の建物跡としては相当規模の大きいものであり，梶原寺に関連する遺構と考えてよい。ただ，基壇・礎石の類がみられないところから，僧坊等の遺構と推定される。鎌倉時代の遺構としては，礎石を有する建物跡１棟・掘立柱建物跡２棟・石組井戸２基・土坑１４基の他・瓦溜・石敷・列石等がある。このような中世の村跡は高槻市内の宮田・上牧・安満等でも知られており，今回の調査によって，さらに資料が累積された。

遺　　物

白鳳時代から奈良時代にかけての多量の瓦類をはじめ円面硯・須恵器・土師器・瓦器・陶磁器などが出土している。

所　　見

今回検出した奈良時代の建物跡は規模も大きく，その配置にも計画性がみられ，梶原寺関連遺構と考えて大過ないと思われる。なお調査地区の南には「大門」という字名の残る一画があり，今後の調査如何によっては，梶原寺の具体像を明らかにすることも可能である。さらにこの寺跡の東北部には，数基の瓦窯のあることも知られており，梶原町一帯は古代寺院の成立を理解するうえで看過できないものがある。（森田）

50.　大蔵司遺跡

所　在　地　　高槻市大蔵司３丁目２１０

調査面積　　３４３㎡

調査期間　　昭和５２年６月２０日

調査経過

当該地は大蔵司遺跡の中心部と思われる地点である。今回，住宅建設に先立って，遺構の有無，遺物包含層の状態を確めるべく，トレンチ調査を実施した。トレンチは当該地の中央部に南北方向（長さ１２ｍ）に設けた。

遺　　構

層序は，盛土（０.５ｍ），耕土（０.２ｍ），床土（０.５

m），茶褐色土層（ 0.4 ～ 0.7 m），淡茶褐色砂礫層（地山）である。なお，トレンチ北側の床土下で，暗褐色土層（ 0.04 m ）の間層を検出した。遺物包含層である茶褐色土層は砂質気味で堆積土と考えられる。地山は若干の起伏をもち，遺構等は検出できなかった。

遺　　物

弥生式土器（中・後期の高杯・甕片），布留式土器（甕片・坩片・高杯片），奈良時代の土師器（甕片），黒色土器片，および須恵器（壺片・甕片・器台片・杯片）がある。その他，若干の瓦片。全体としては，弥生時代末～古墳時代中頃までの土器が多い。

所　　見

遺物包含層の状態及び遺物のあり方からみて，当該地の北ないし，東方に弥生～古墳時代にかけての集落の存在が考えられる。（森田）

51. 宮田遺跡

所 在 地　高槻市宮田町 3 丁目 4 － 1

調 査 面 積　964.91 m²

調 査 期 間　昭和 52 年 7 月 12 日～ 7 月 18 日

調 査 経 過

当該地は春日神社の道を隔てた南側にあたり，店舗付高層住宅の建設が予定されたため，発掘調査を実施した。

遺　　構

耕土（ 0.2 m ）下はすぐに黄褐色粘土層（地山）になり，床土・包含層はなかった。

検出した遺構は，西南隅の落ち込み 1 ケ所と数個の柱穴だけである。

遺　　物

北東部にあった池跡の埋土から，土師器・須恵器・瓦器の破片が若干出土している。

所　　見

宮田遺跡の西北側に位置する春日神社一帯では，弥生時代中期からの遺物が採集されており，東方側で調査された中世集落の前身にあたる古い時期の集落の存在が予想された。しかし，このような予想に反して遺構はほとんど検出することができなかった。（大船）

52. 宮田遺跡

所 在 地　高槻市宮田町 3 丁目 48 － 3

調 査 面 積　1,562.89 m²

調 査 期 間　昭和 52 年 8 月 11 日～ 9 月 28 日

調 査 経 過

当該地は春日神社から南約 100 m にあたり，分譲住宅の建設が予定されたため発掘調査を実施した。

遺　　構

層序は耕土（ 0.2 m ）で，西側は黄褐色粘土（地山）になるが，東側では床土（ 0.4 m ）が敷かれている。大きく 2 群に分かれる鎌倉期の屋敷群が溝によって区画されており，その内外に井戸 10 基，土坑墓 3 基を認めた。また調査区を北西から南東方向に流れる幅 2.5 m・深さ 1.5 m の自然の流路があり，6 世紀代の遺物を包含している。その他，弥生時代中期の幅 1 m・深さ 0.6 m の U 字溝が 2 本並行して東西に走っている。

遺　　物

弥生時代から中世までの各時代の遺物がある。特に中世の遺構に伴って出土した瓦器・土師器・須恵器・磁器は多量に出土した。その他，宋銭・井戸枠の曲物がある。弥生時代・古墳時代の遺物は少なく，自然の流路と U 字溝から出土している。

所　　見

検出した鎌倉期の集落は，以前調査した 100 m 東側の屋敷群と同時期で東西に並んでいるらしいことが推測され今後，中世集落のあり方を考える上で重要な資料といえる。

（大船）

53. 富田遺跡

所 在 地　高槻市富田町 6 丁目 17 － 2

調 査 面 積　504.75 m²

調 査 期 間　昭和 52 年 4 月 26 日～ 27 日

調 査 経 過

昭和 51 年夏に調査を実施した富田遺跡の南約 100 m に位置する。今回，住宅建設に先立ち，富田遺跡の南への拡がりを検証するために，試掘調査を実施した。試掘にあたっては，南北 8 m のトレンチを設定した。

遺　　構

層序は淡黄灰色土層〔盛土〕（ 0.3 m ），淡茶灰色土層（ 0.2 ～ 0.3 m ），淡茶色土層（ 0.2 m ），茶褐色土層（（ 0.1 ～ 0.5 m ），地山となる。このうち淡茶灰色土層以下の 3 層は，遺物を包含する。なお地山面で遺構らしきものは検出できなかった。

遺　　物

整地層である茶灰色土層から，弥生式土器，土師器，陶器片が，また淡茶色土層から土師器片（燈明皿），三足土器の脚片が，茶褐色土層から弥生式土器片（後期）が，それぞれ出土している。とくに淡茶色土層と茶褐色土層との時期差は，51 年度に調査した富田遺跡の知見とも符合する。

所　　見

今回の調査区は南へ張り出した台地の縁辺部に位置し，その地表面は南傾している。しかし，調査の結果，地山面は北方向に落ち込んでいるところから，小規模な開析谷の存在が考えられる。遺構は検出されなかったが，遺物包含層の状態から推して，富田遺跡が当該地周辺にまで及んでいることが充分に考えられる。（森田）

Ⅲ　高槻市文化財一覧

種　　別	件　　名	所在地	管理者	指定年月日
〔国指定〕				
国　　宝	金銅石川年足墓誌			
	付木櫃残（銅釘付）一括	真上町	田中伊久	S.27.3.29
重要文化財	木造　聖観音立像　二軀	原	神峯山寺	S.25.8.29
	〃　阿弥陀如来坐像	〃	〃	〃
	〃　聖観音立像	〃	本山寺	〃
	〃　毘沙門天立像	〃	〃	〃
	〃　千手観音坐像	浦堂本町	安岡寺	S.49.6.8
	絹本着色　探花図　石鋭筆	城北町	橋本末吉	S.38.7.1
	普門寺方丈	富田町	普門寺	S.52.1.28
旧法による重要美術品	石造　灯籠	天神町	上宮天満宮	S.17.5.30
史　　跡	今城塚古墳	郡家新町	高槻市	S.33.2.18
〃	嶋上郡衙跡附寺跡	清福寺町他	〃	S.46.5.27
〃	石川年足墓	真上町	国	——
〔府指定〕				
史　　跡	高槻城跡	城内町他	高槻市	S.25.5.1
〃	高山右近高槻天主教会堂跡	野見町	〃	S.25.5.9
〃	西国街道芥川一里塚	芥川町	芥川東部落会	S.16.5.14
名　　勝	摂津峡	原・塚脇	高槻市	S.13.5.11
〃	普門寺庭園	富田町	普門寺	S.46.3.31
有形文化財	教宗寺の石槽	芥川町	教宗寺	S.49.3.29
〃	八坂神社の石槽	原	八坂神社	〃
〔市指定〕				
有形文化財	笹井家住宅	解体保管中	高槻市	S.47.9.12
〃	本山寺文書　2巻	原	本山寺	S.49.3.30
〃	天川水帳（高山帳）　2冊	東天川	森田亮吉	〃
〃	葉間家文書　3巻	柱本町	葉間正造	〃
〃	成合春日神社雨乞祭具一式	成合町	春日神社	〃
〃	木造大日如来坐像1軀	大字田能	田能自治会	S51.6.1
史　　跡	下田部高札場	下田部町	下田部自治会	〃

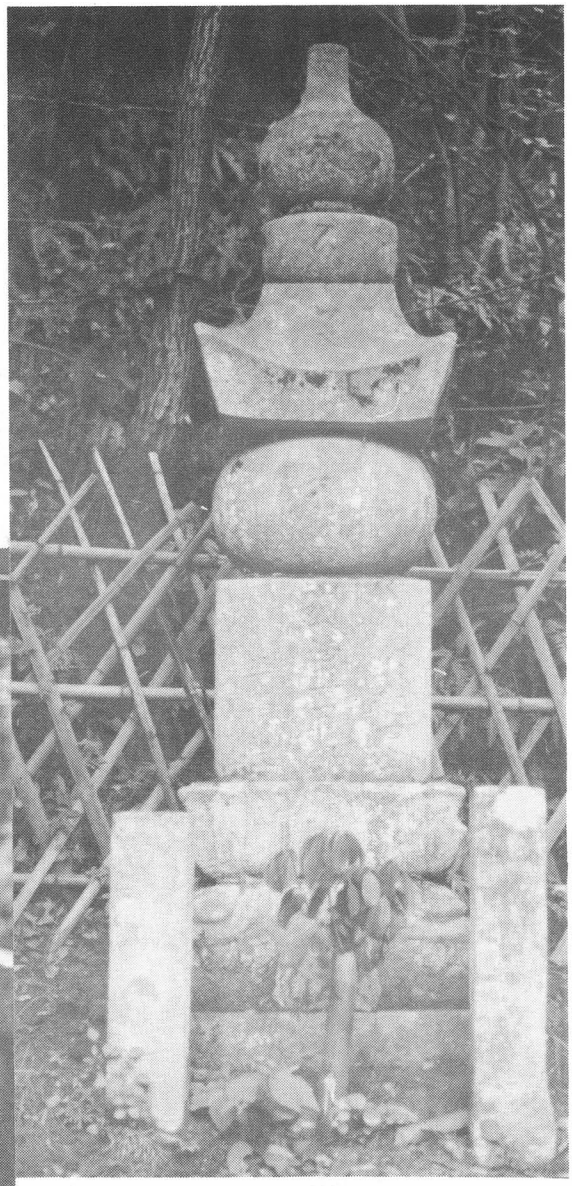
a　千手観音坐像（安岡寺）修理前

b　千手観音坐像（安岡寺）修理後

a　普門寺方丈

b　鳥居 元和八年（磐手杜神社）

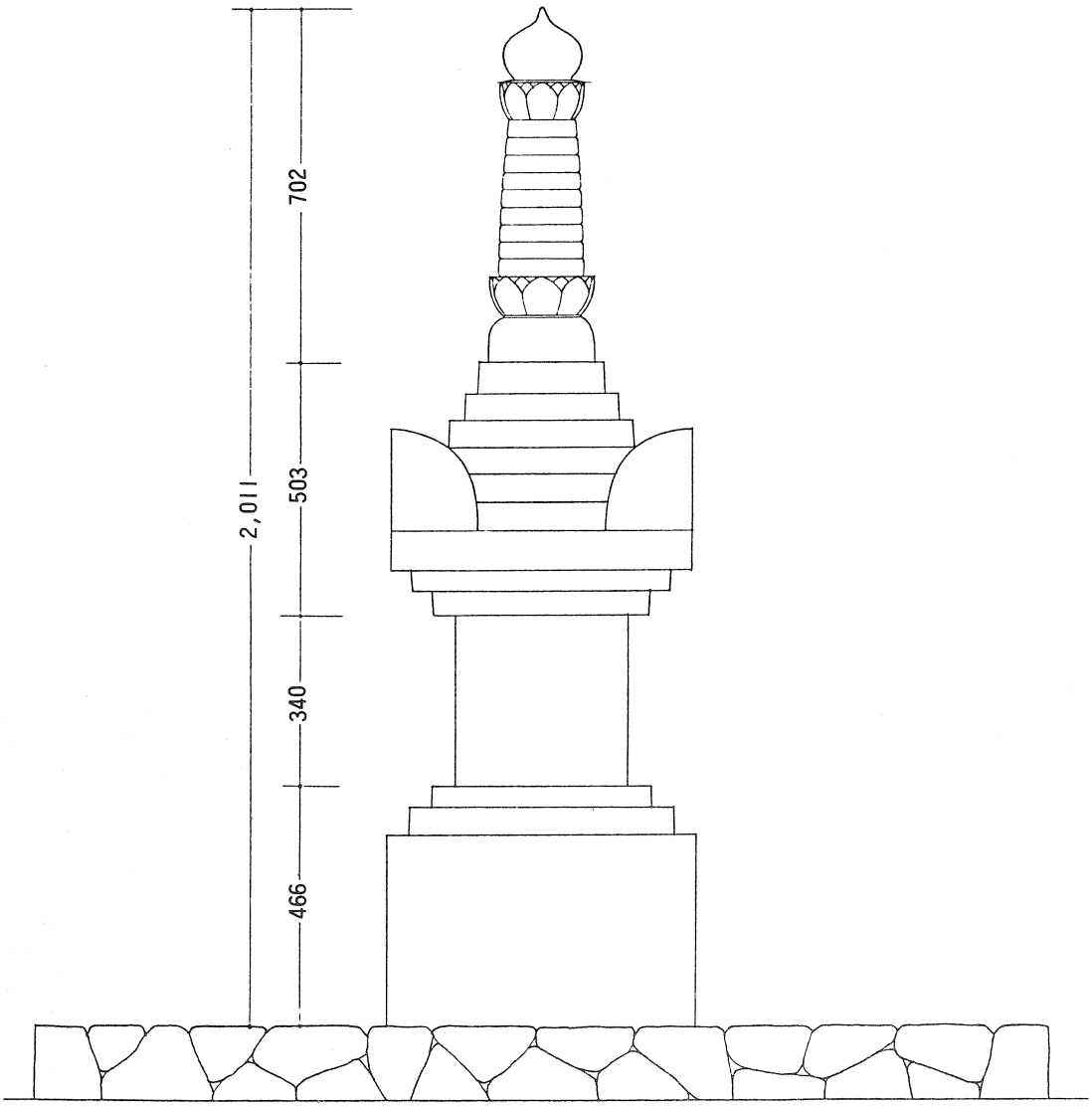
石造物



五輪塔　宝永五年（神峯山寺）

燈籠　正保三年（磐手杜神社）

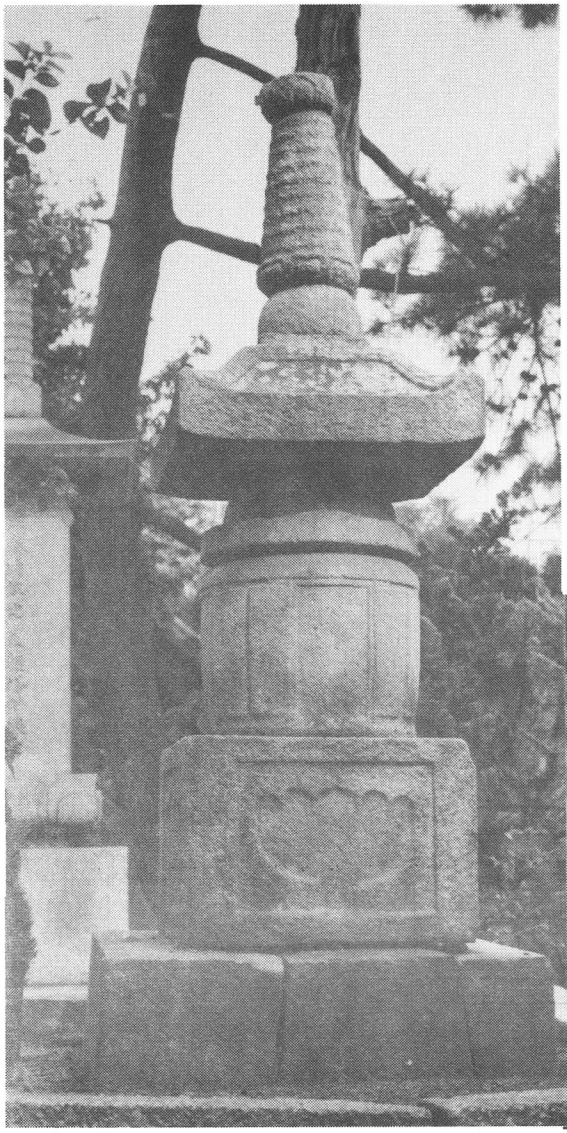
本山寺石造宝篋印塔



1:10

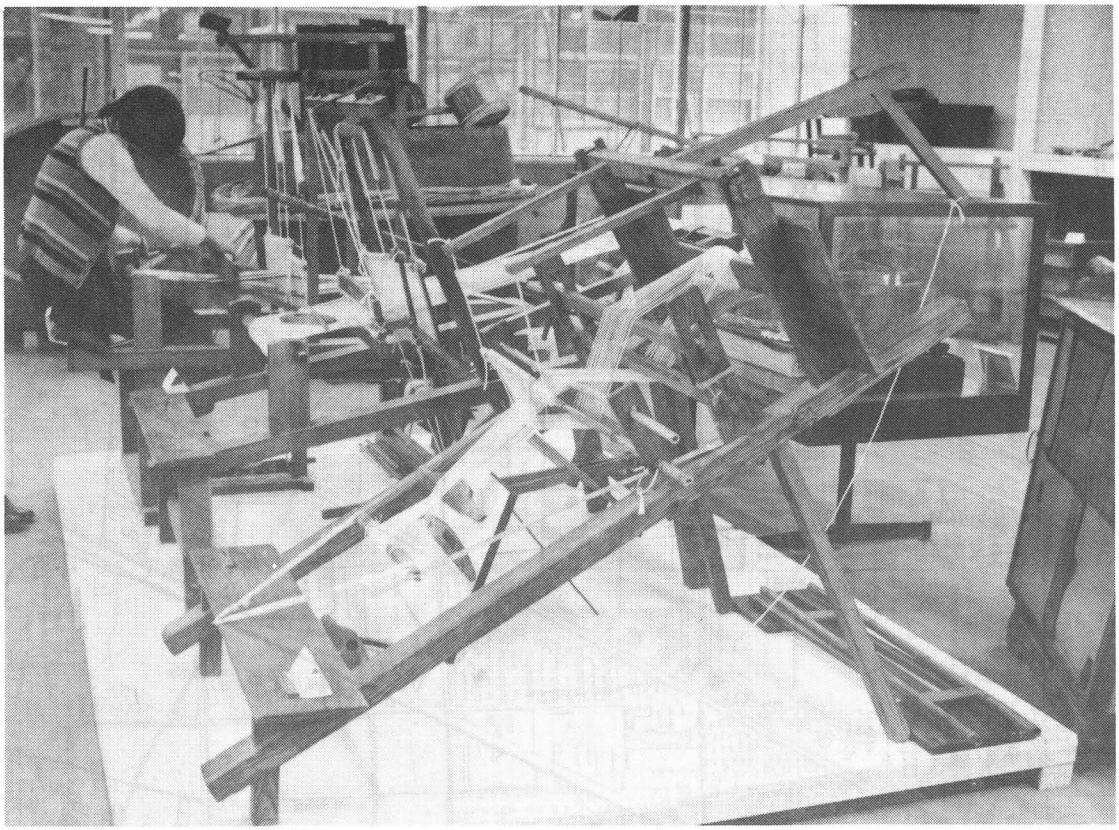
本山寺石造宝篋印塔実測図

石造物

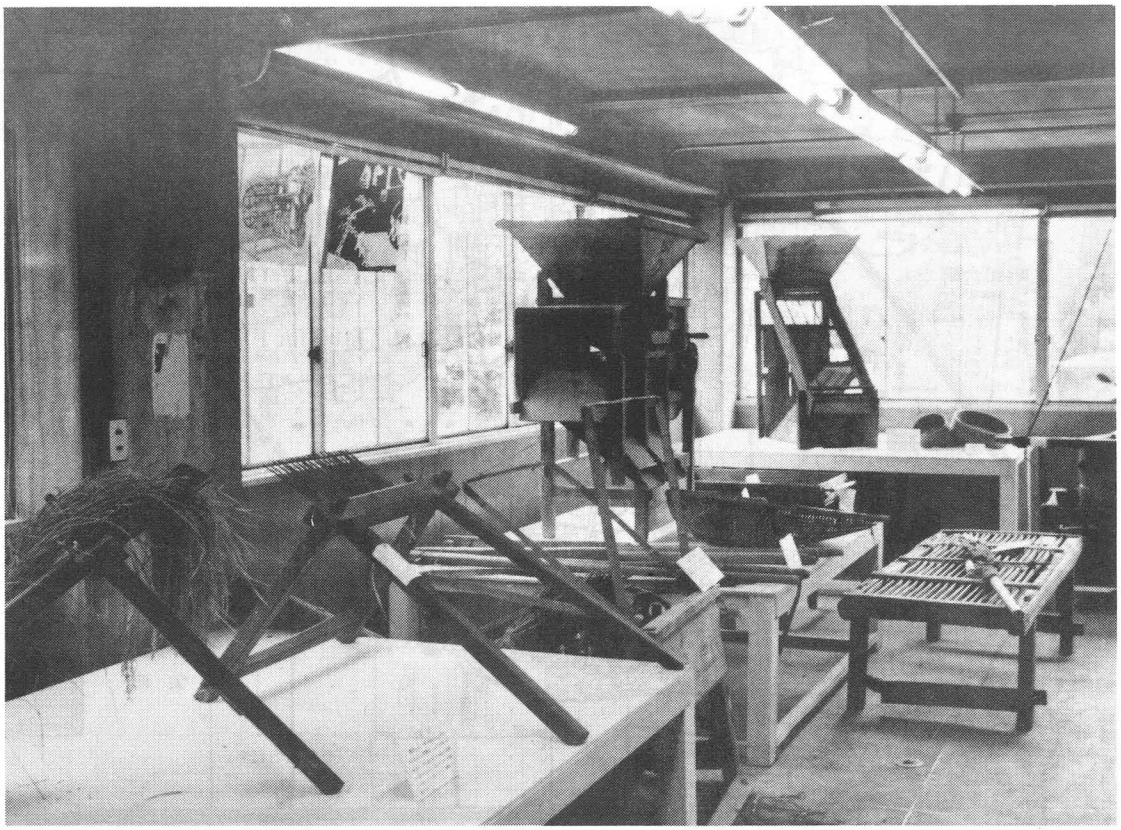


宝　塔（本澄寺）

宝篋印塔　貞和三年（神峯山寺）

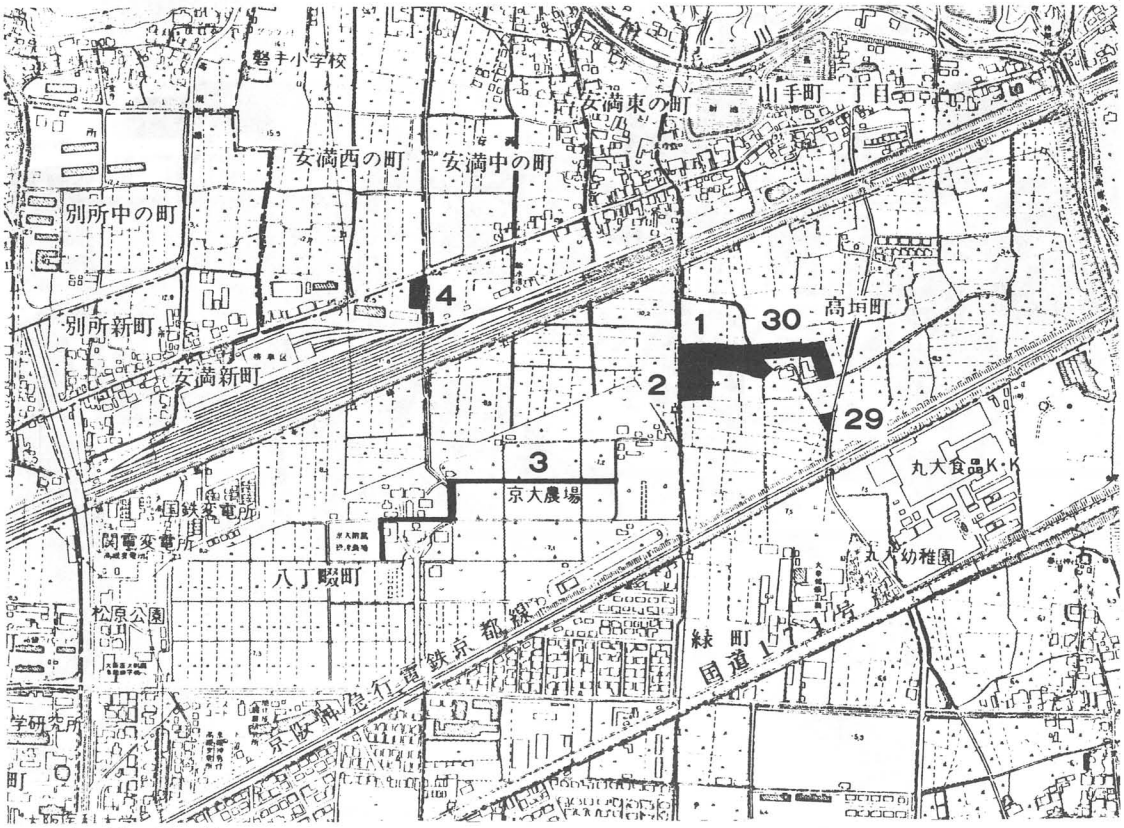


a　民俗文化財展（高機など）

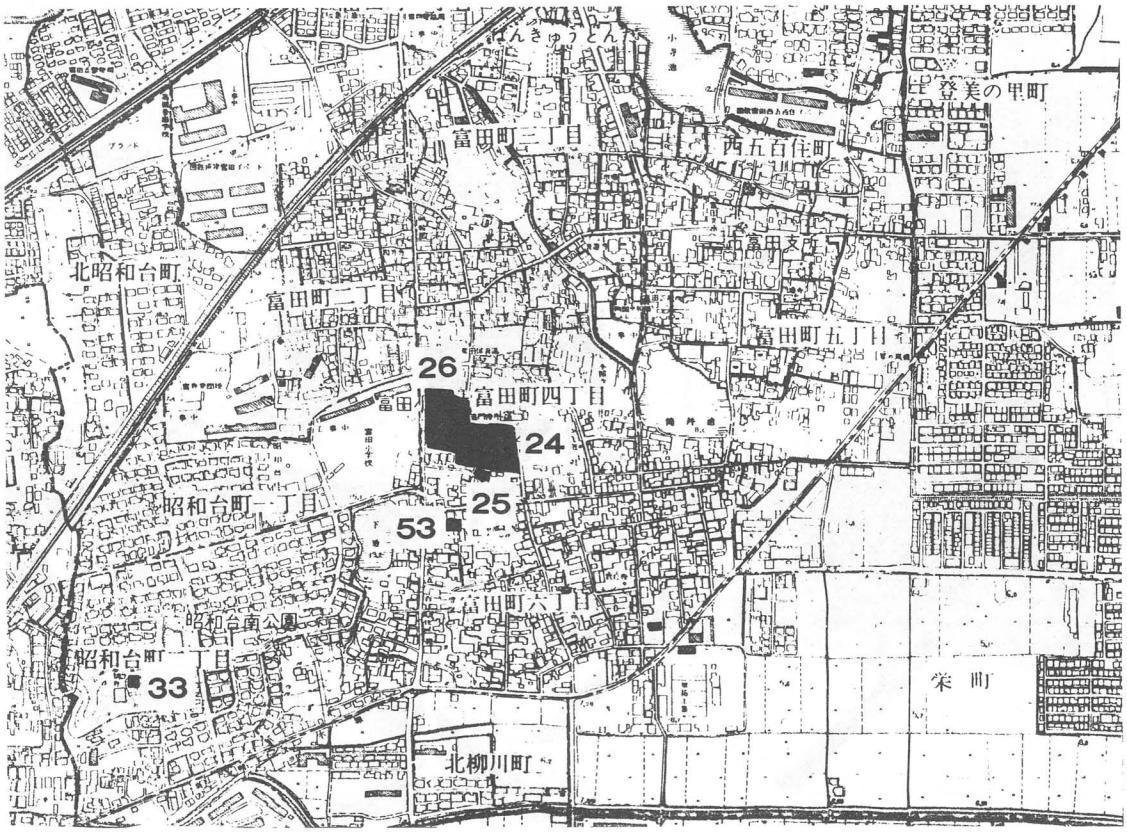


b　民俗文化財展（農機具など）

埋蔵文化財調査位置図

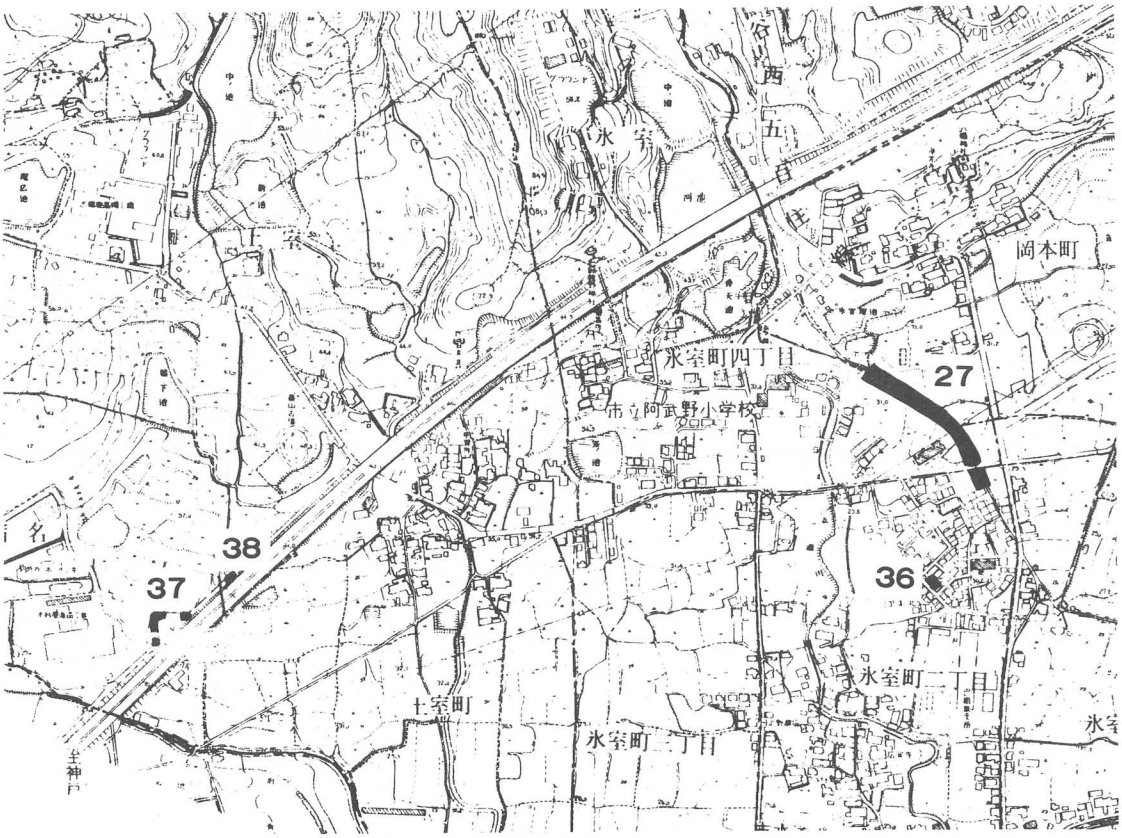


a　安満遺跡

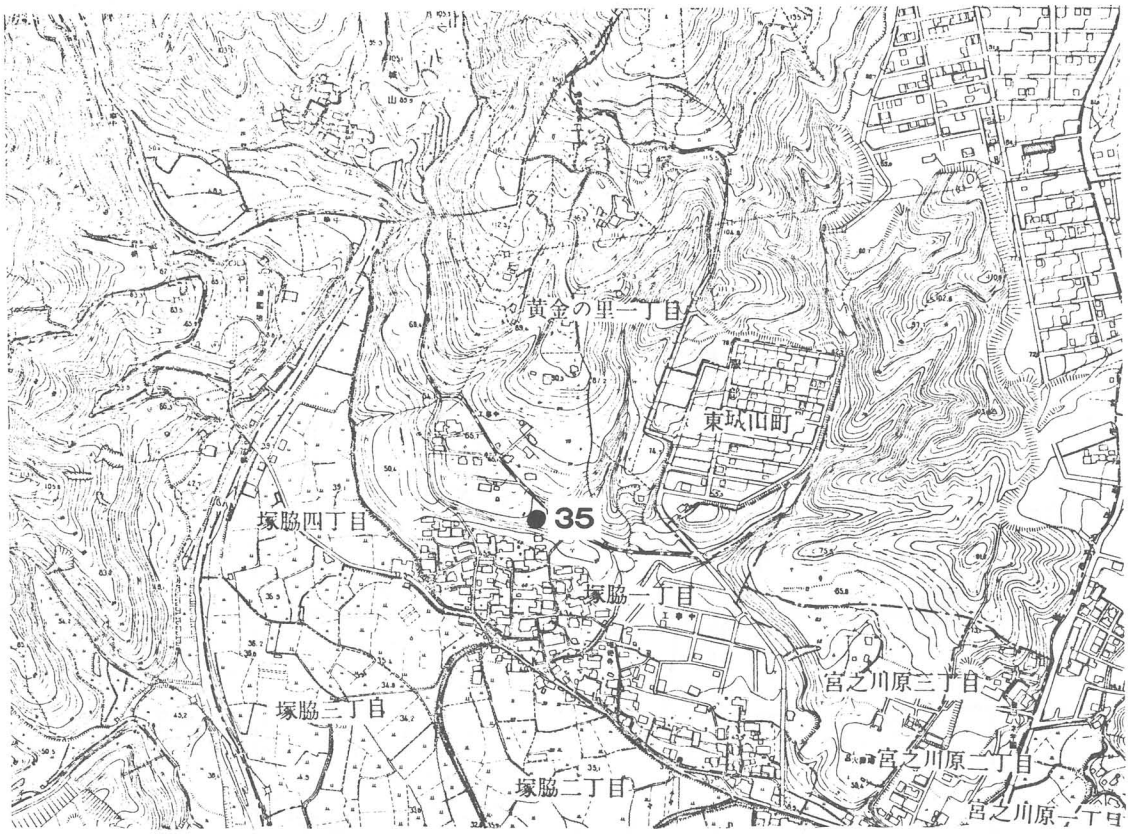


b　富田・中城遺跡

埋蔵文化財調査位置図

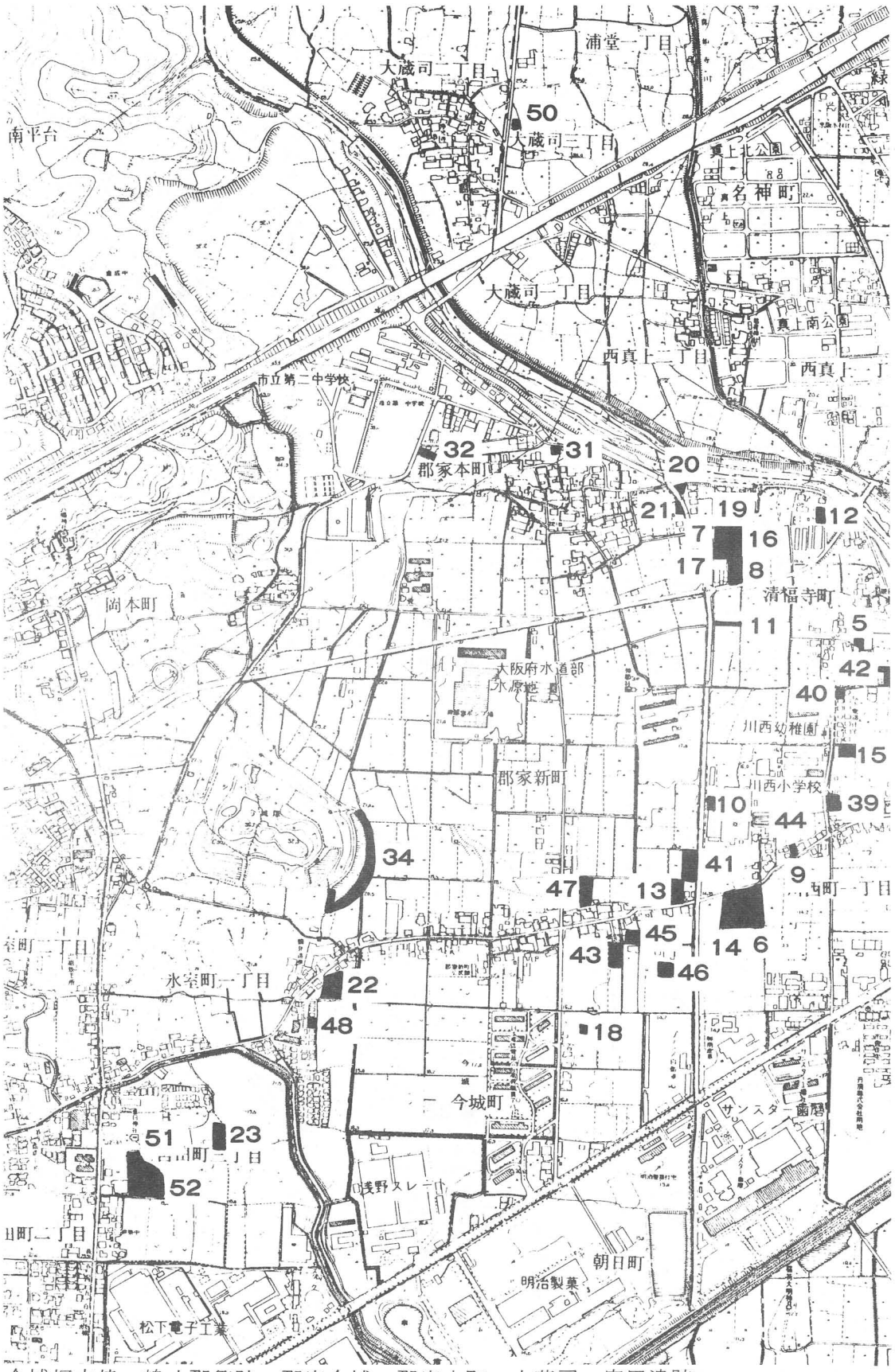


a　上氷室遺跡・二子山・土保山・氷室塚古墳



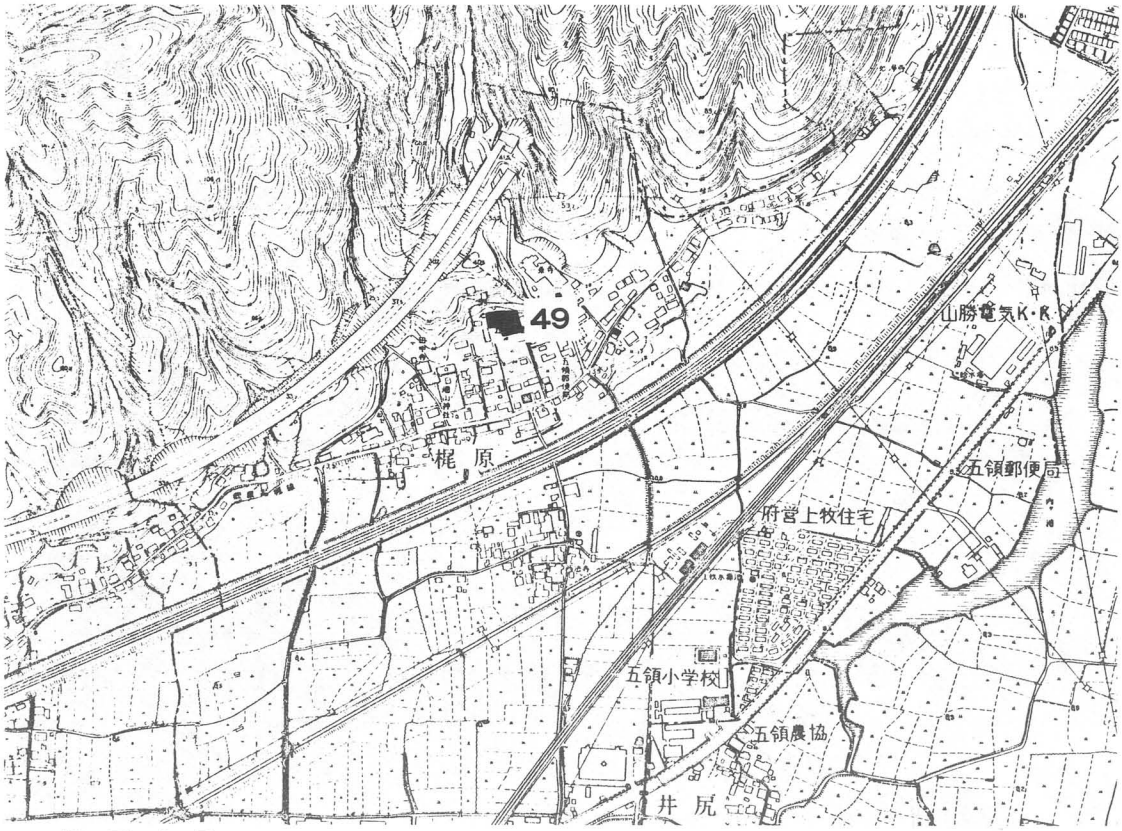
b　塚脇Ｘ－１号墳

埋蔵文化財調査位置図

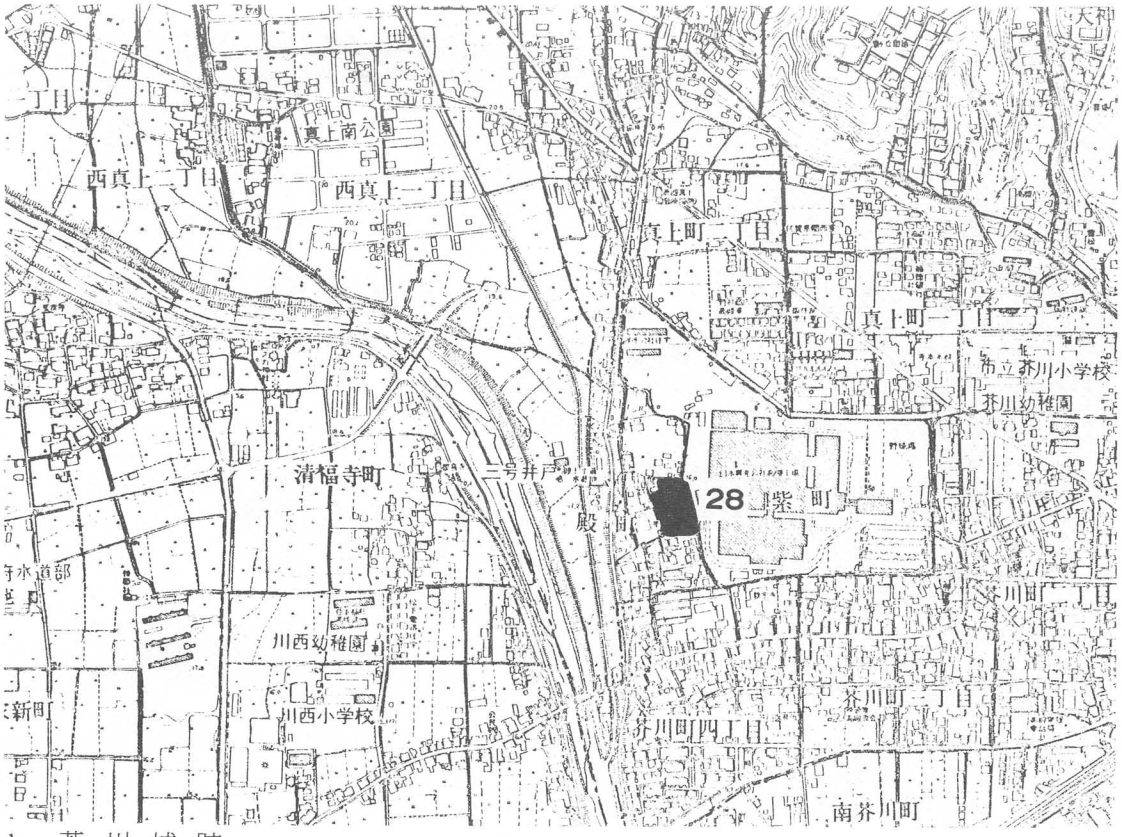


今城塚古墳、嶋上郡衙跡、郡家今城・郡家本町・大蔵司・宮田遺跡

埋蔵文化財調査位置図

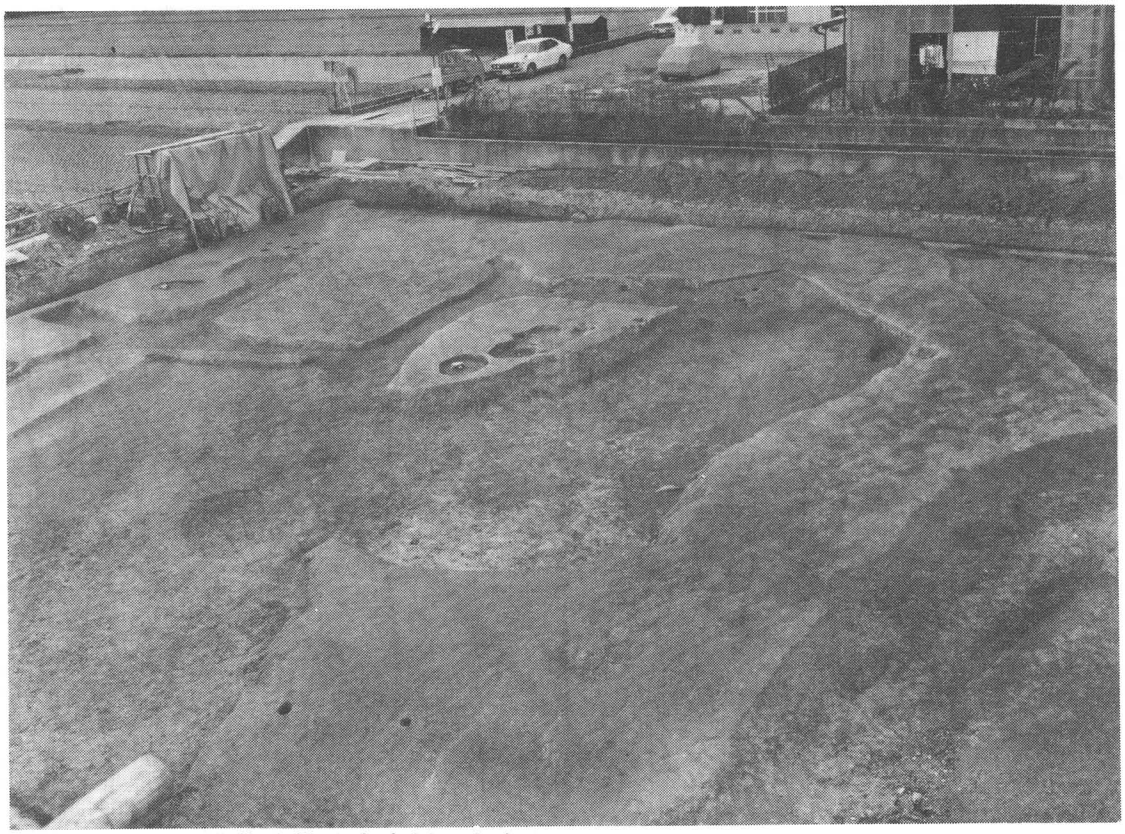


a　梶原寺跡



b　芥川城跡

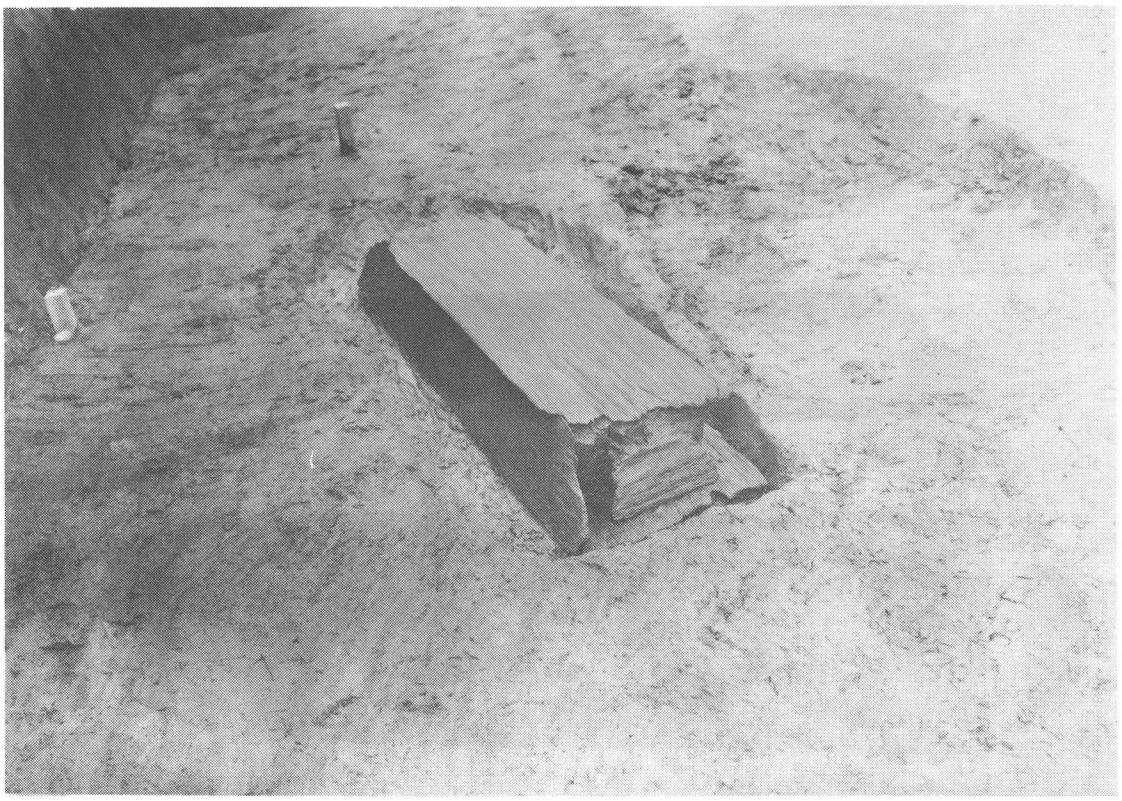
安満遺跡



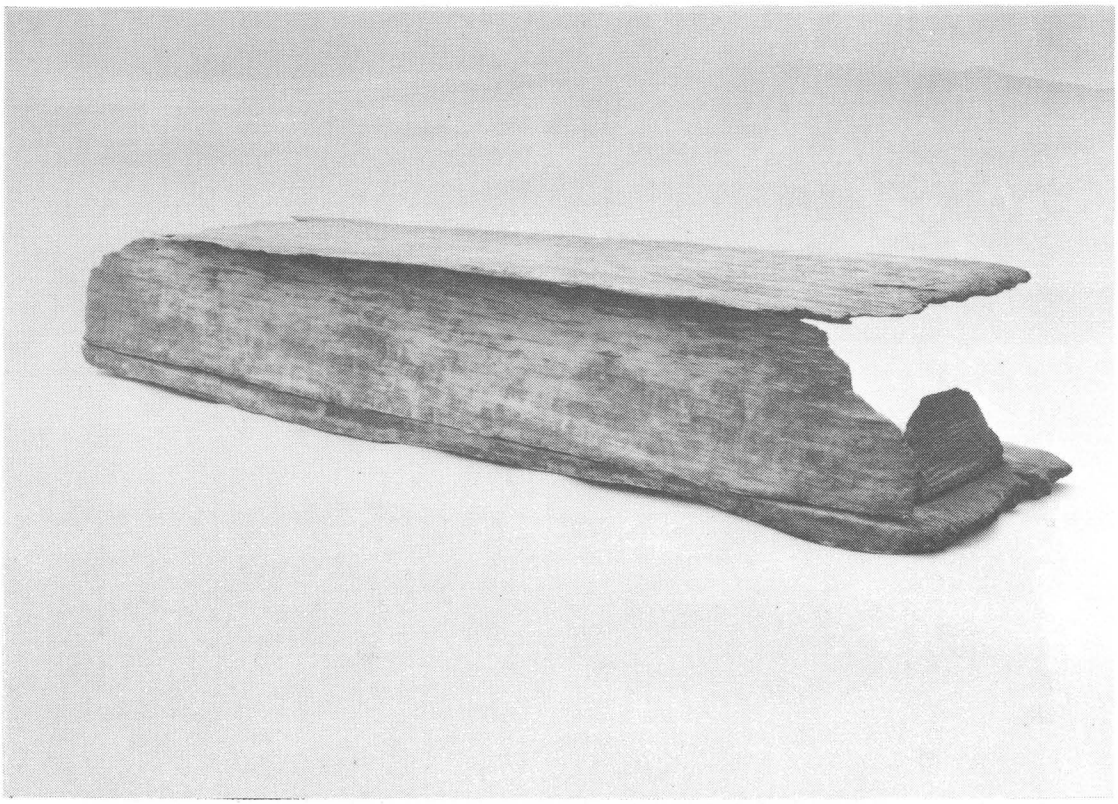
a　（埋１）　溝状遺構（東南側から）

b　（埋２）　方形周溝墓群（北側から）

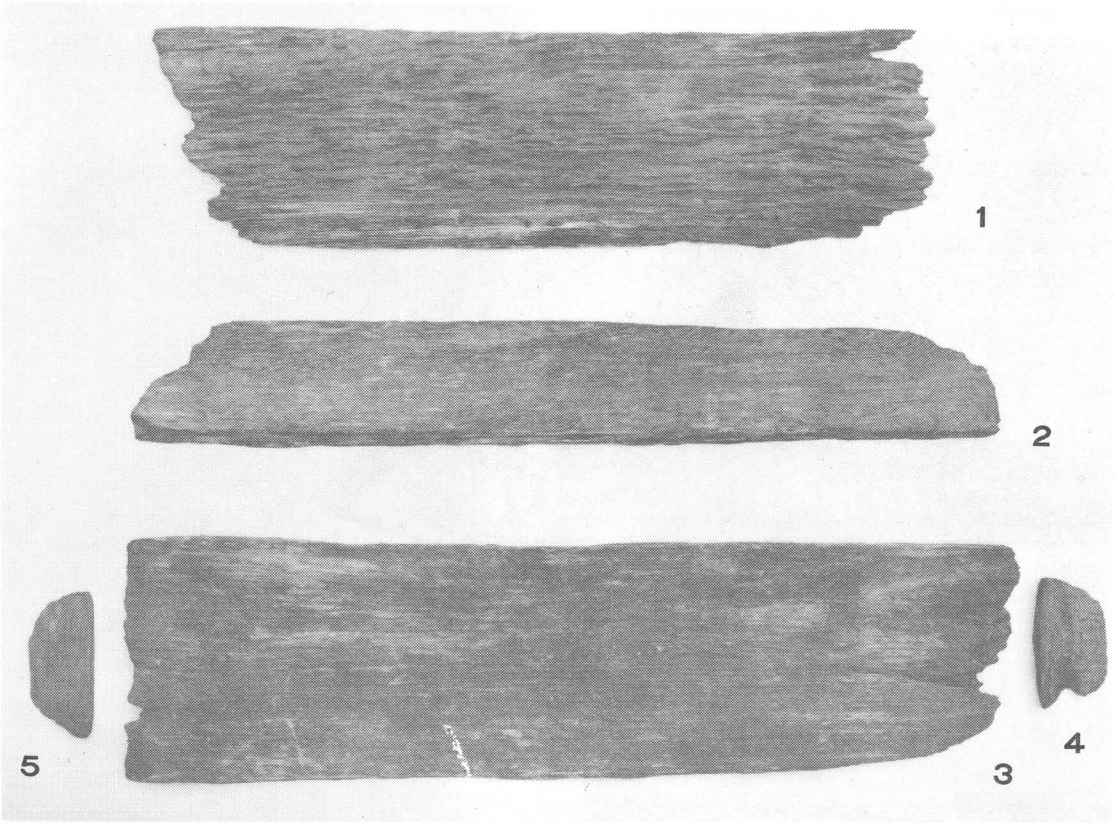
a　（埋２）　１号方形周溝墓（西側から）



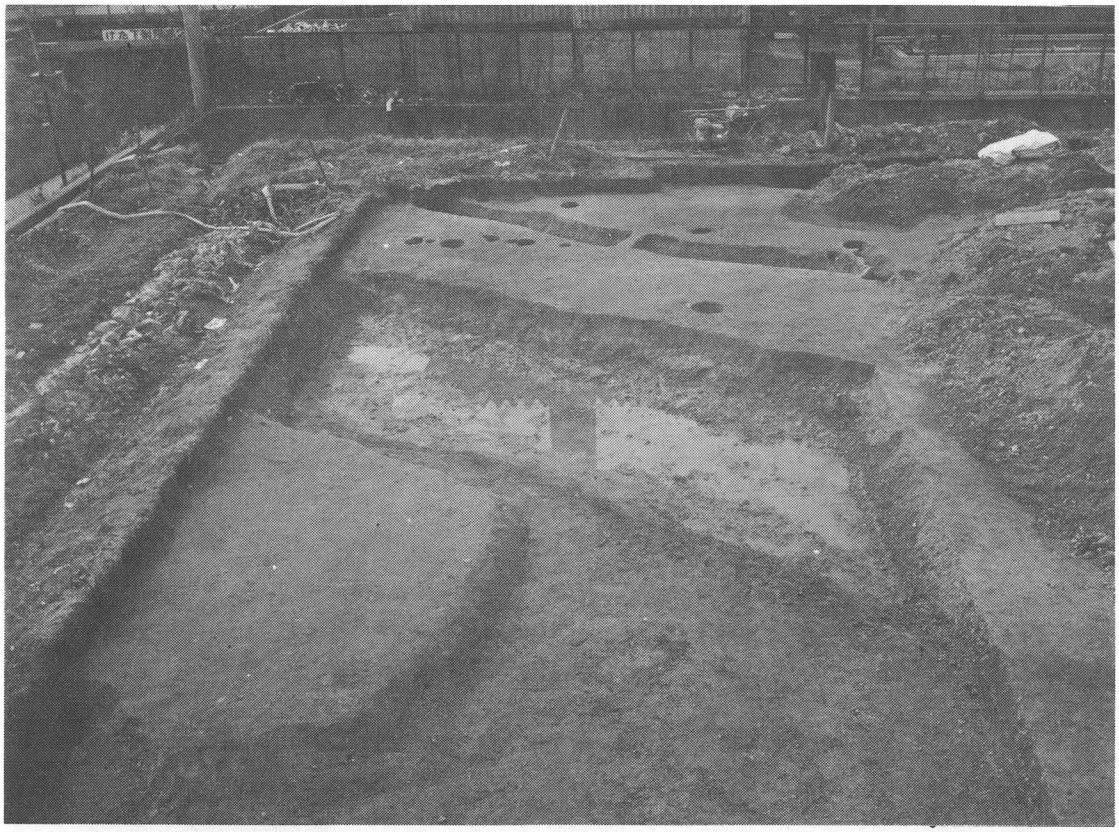
b　（埋２）　木棺出土状況（北側から）



a　（埋２）　木　棺



b　（埋２）　木棺、蓋(1)・側板(2)・底板(3)・木口板（４・５）



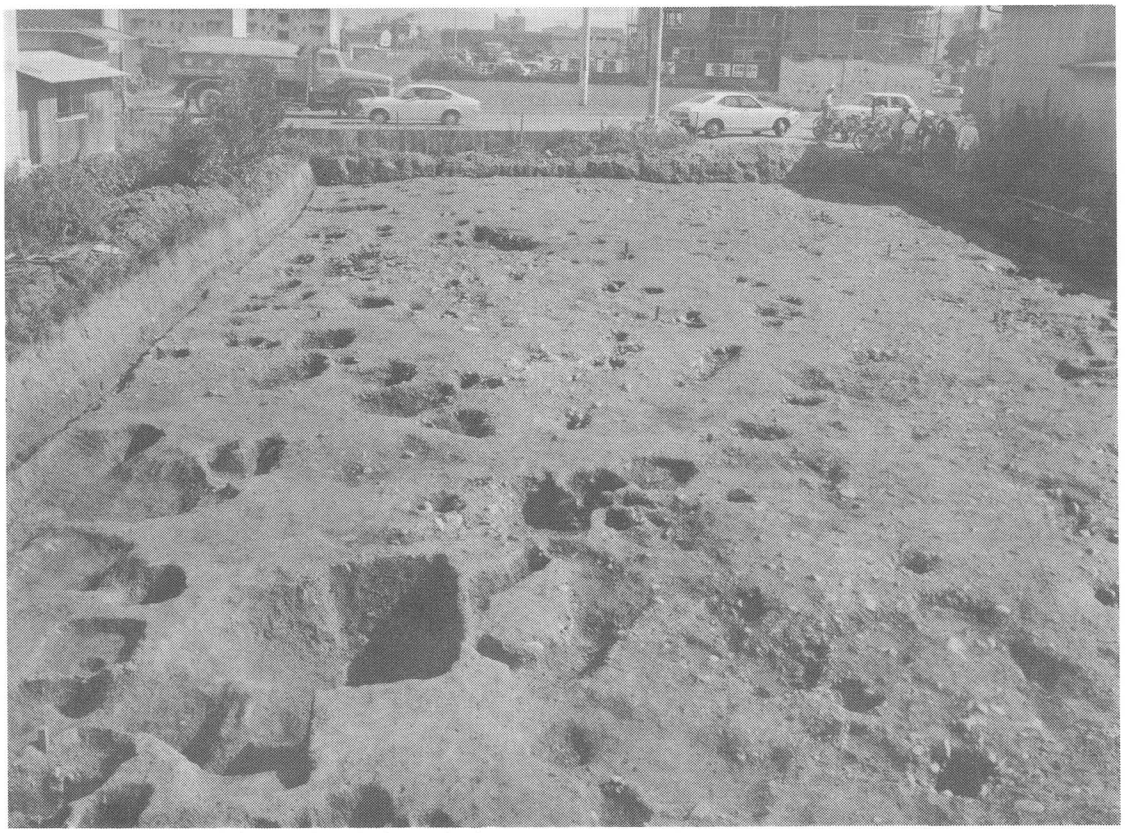
a　（埋４）　溝および掘立柱建物跡（北側から）

b　（埋４）　溝（北側から）

a　（埋７）　遺構全景（南側から）

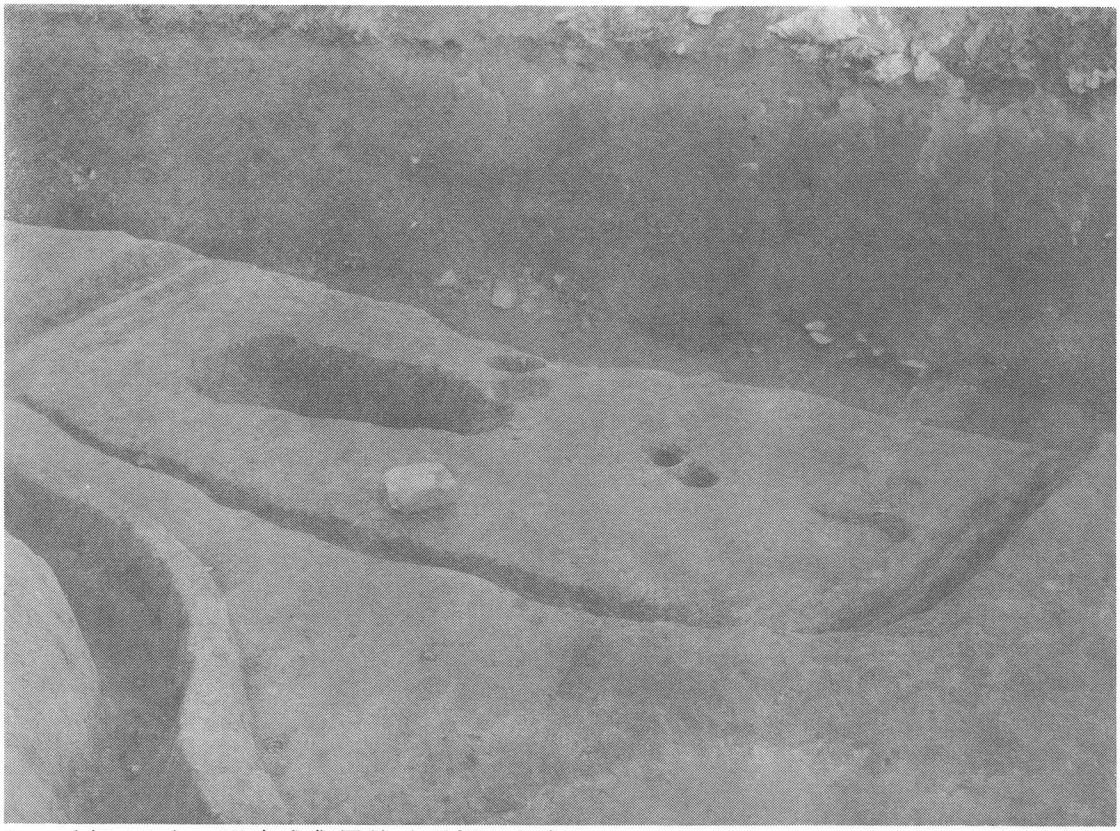
b　（埋７）　遺構全景（北側から）

a　（埋８）　遺構全景（南側から）



b　（埋８）　遺構全景（北側から）

a　（埋12）　遺構全景（南側から）



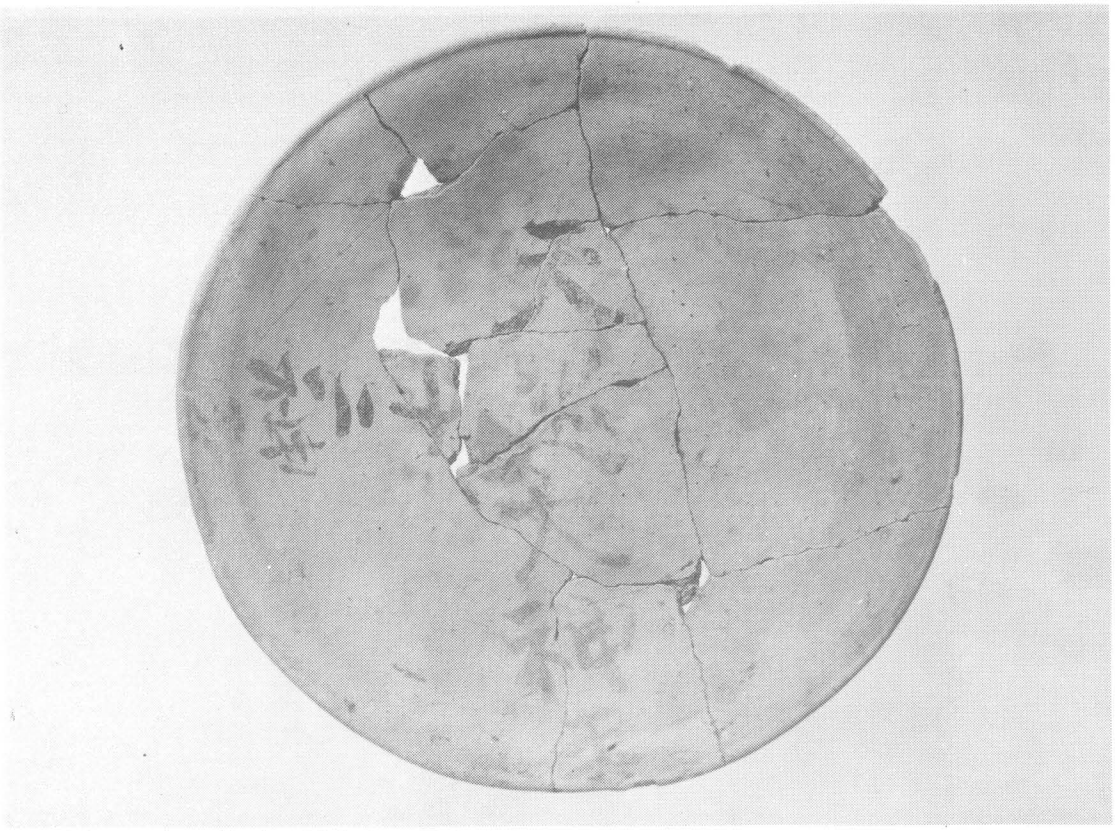
b　（埋12）　竪穴式住居址（西側から）

a　（埋13）　山陽道跡（南側から）

b　（埋13）　山陽道跡（北側から）

a　（埋16）　遺構全景（南側から）

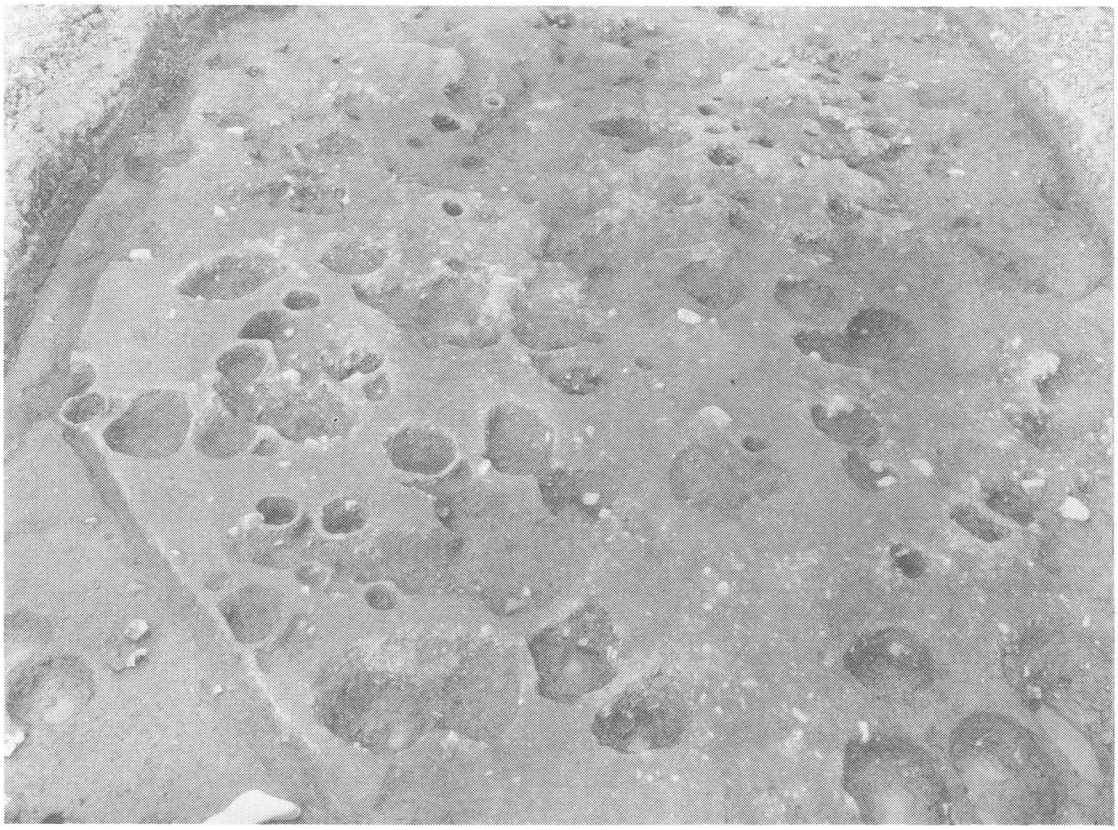
b　（埋16）　遺構全景（北側から）



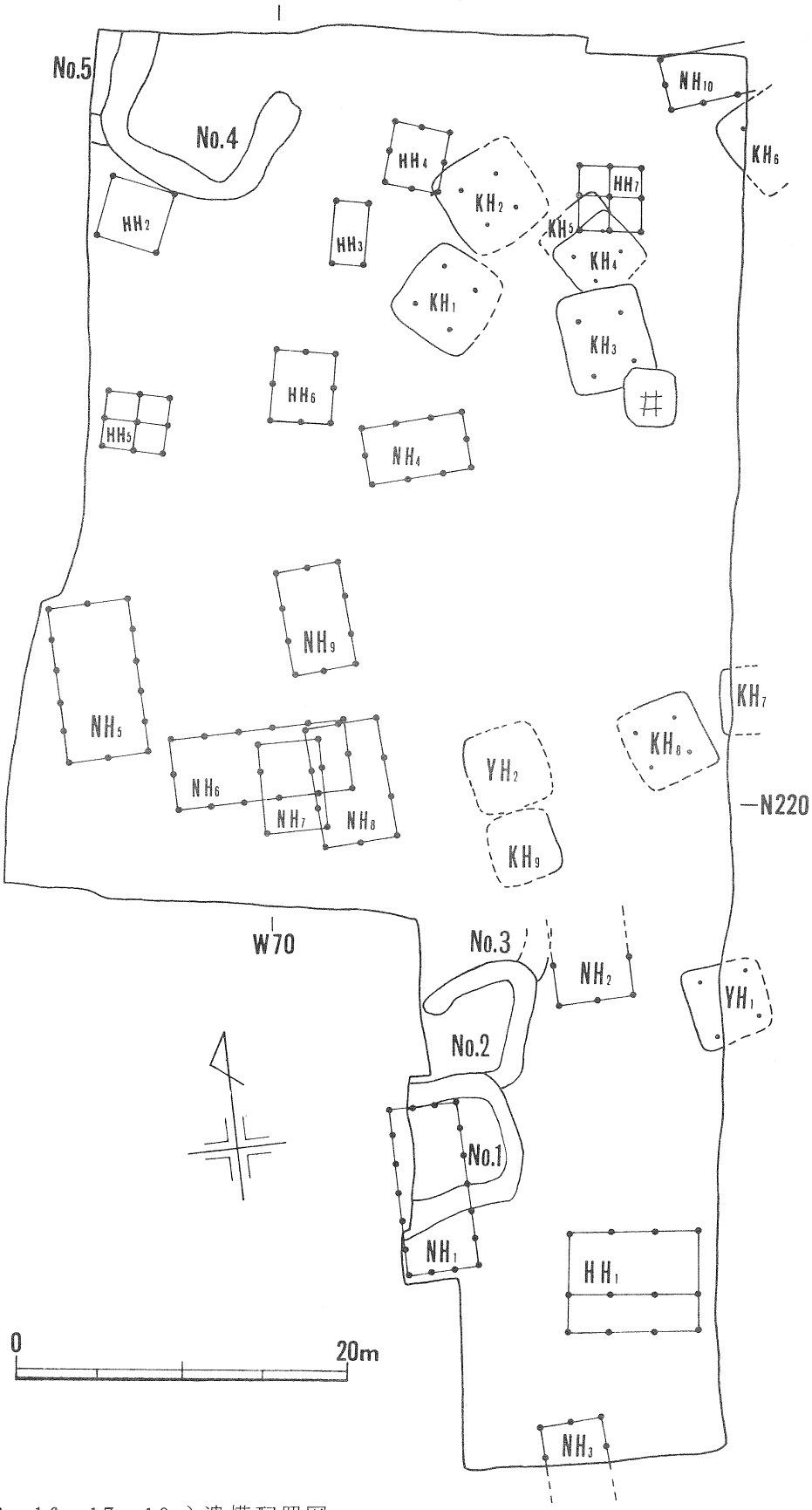
a　（埋 16 ）　井戸下層出土の墨書土器

b　（埋 16 ）　井戸下層出土の墨書土器

a　（埋 17 ）　掘立柱建物跡（東側から）

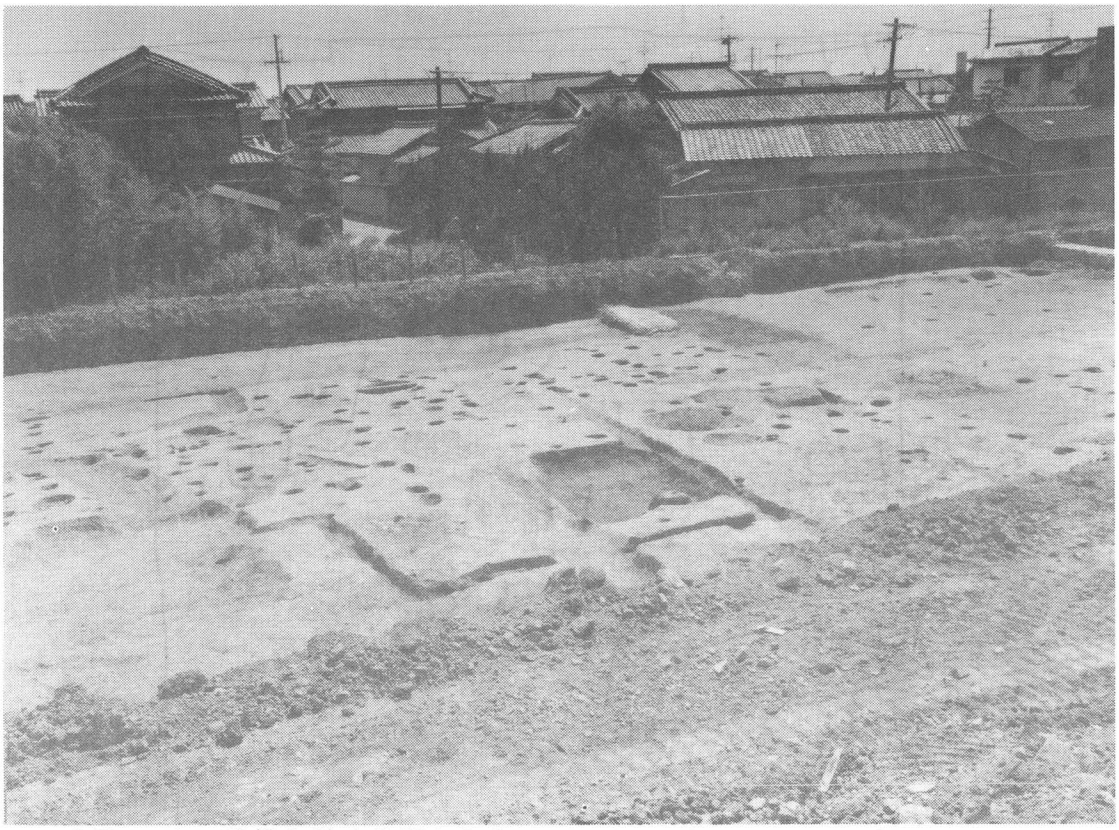


b　（埋 19 ）　竪穴式住居址および掘立柱建物跡（南側から）



（埋７．８．16．17．19）遺構配置図

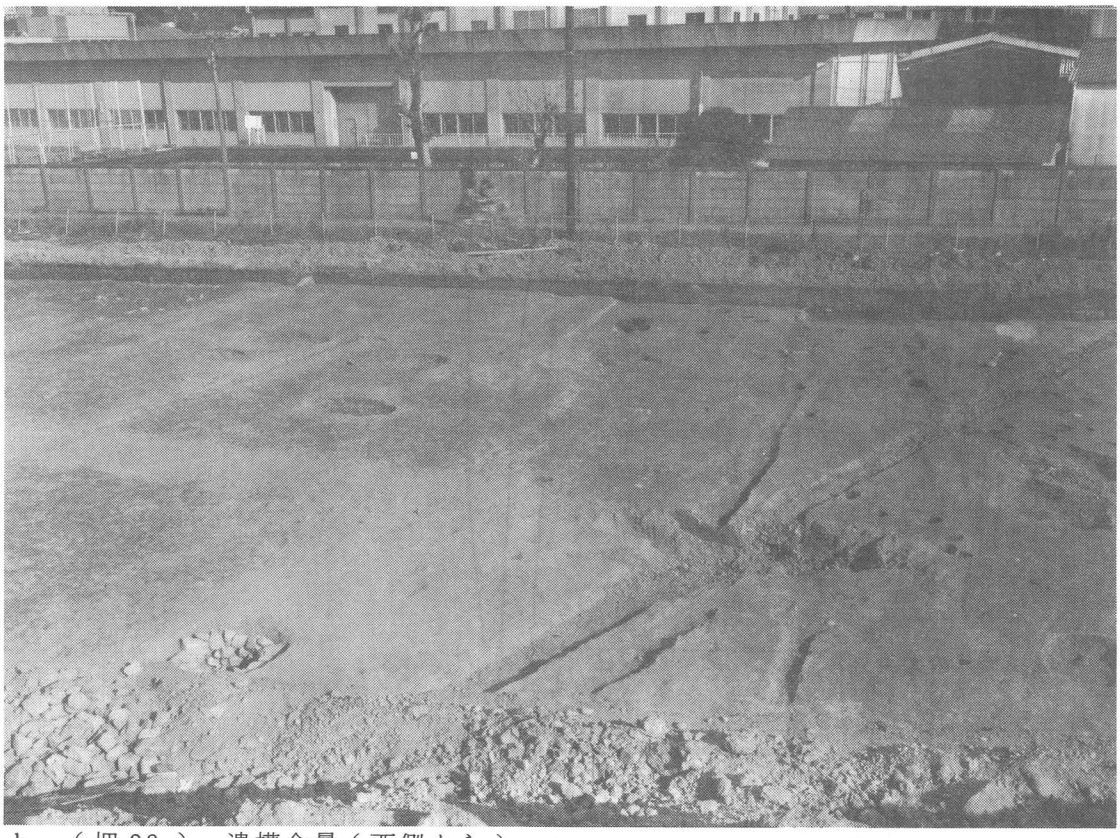
富田遺跡



a　（埋 24 ）　遺構全景（北側から）

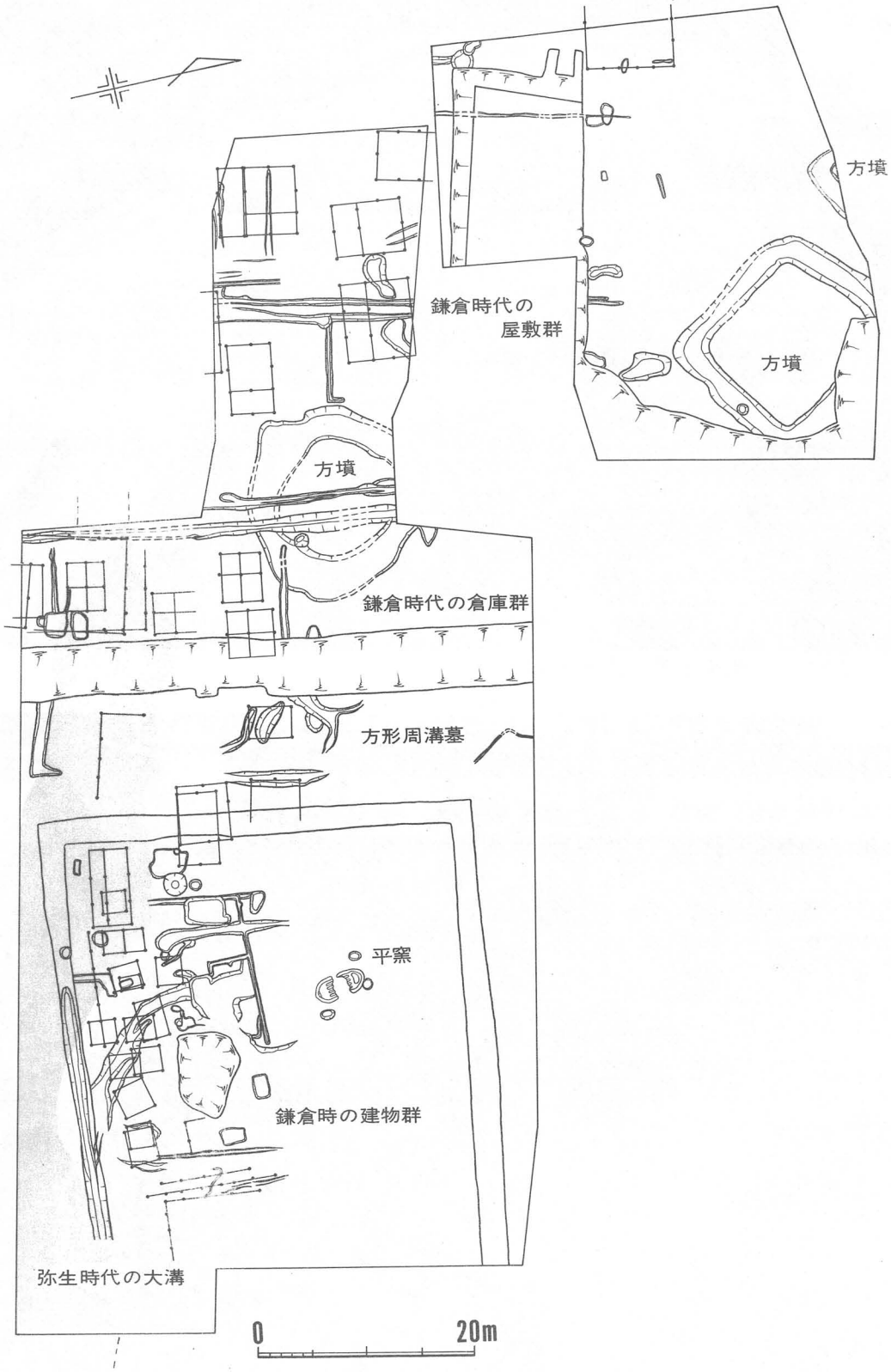
b　（埋 24 ）　遺構全景（東側から）

a　（埋24）　遺構全景（西側から）



b　（埋28）　遺構全景（西側から）

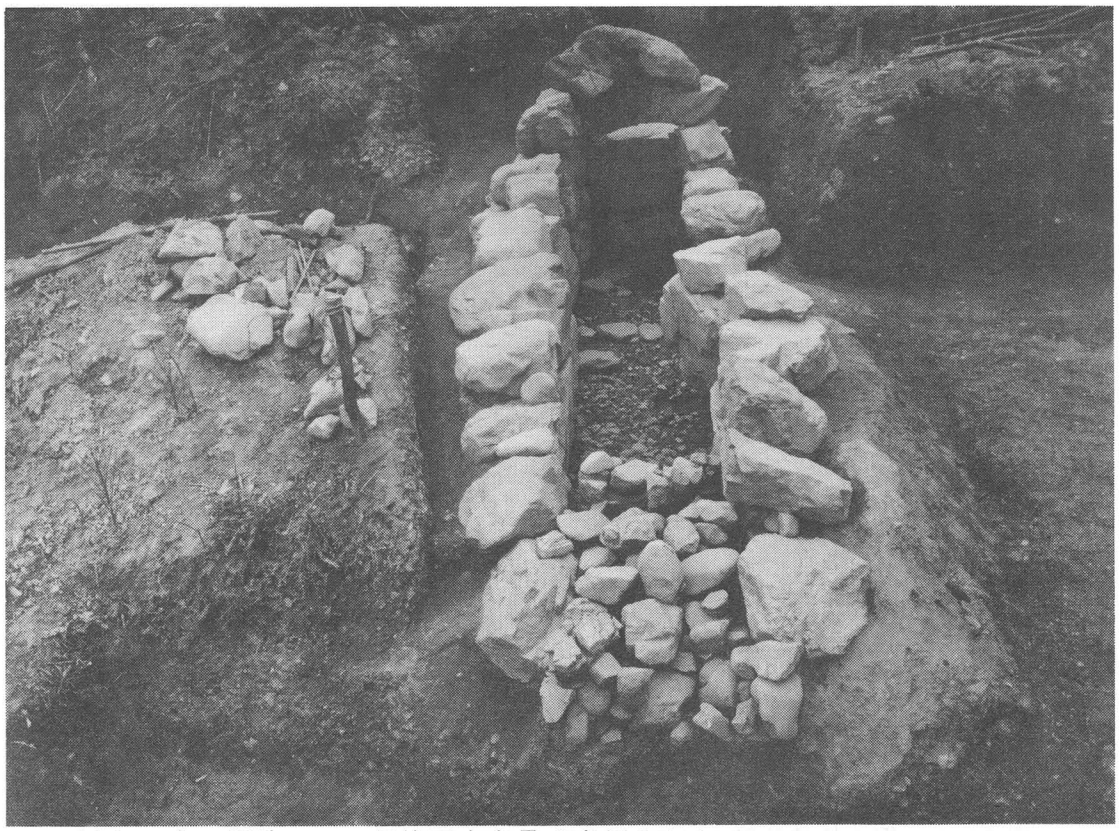
富田遺跡



（埋 24.26） 遺構実測図

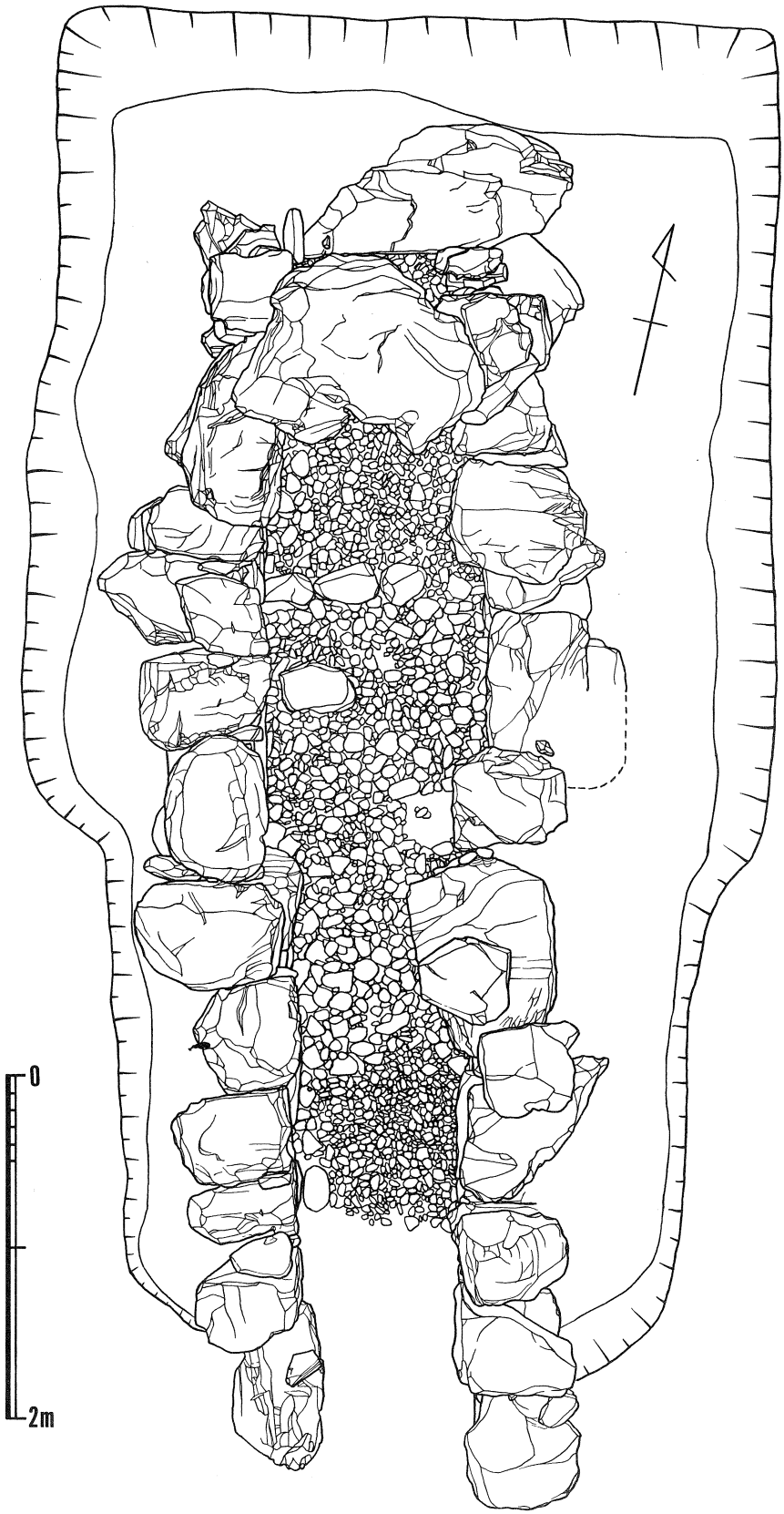
a　（埋30）　掘立柱建物跡および土壙墓（北側から）

b　（埋30）　掘立柱建物跡および井戸（南側から）

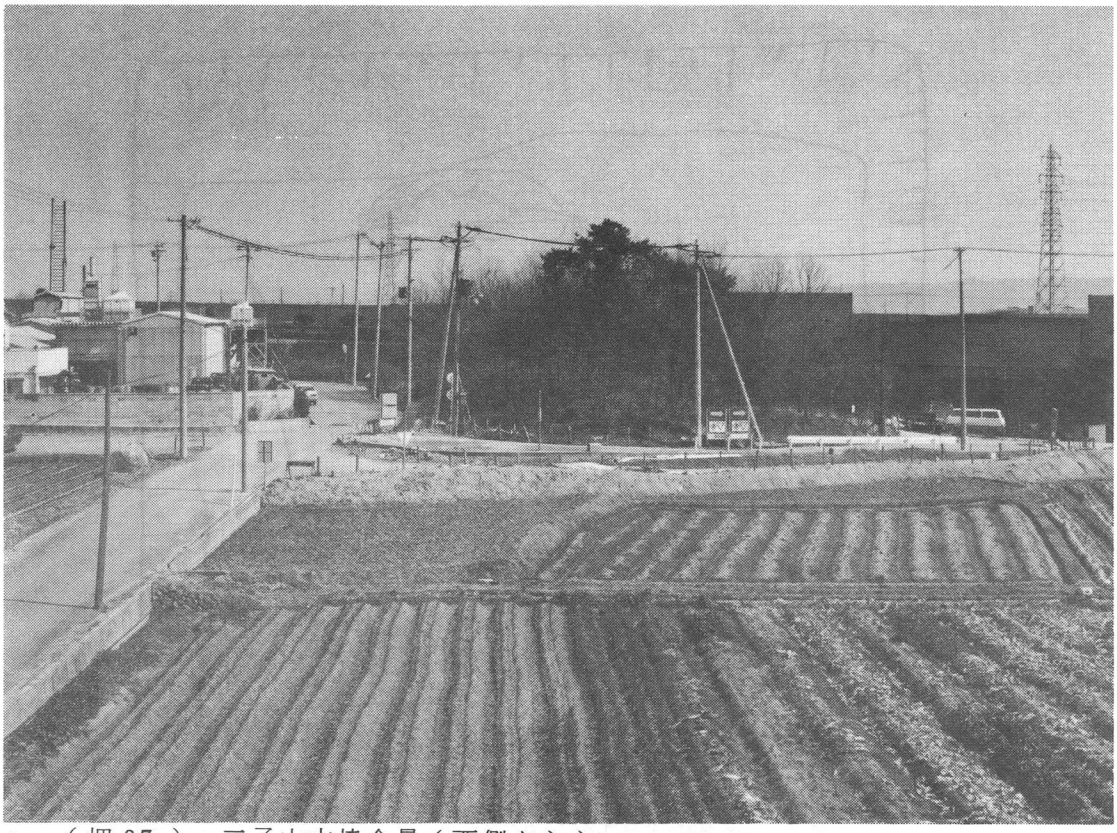


a　（埋 35 ）　塚脇Ｘ－１号墳石室全景（南側から）

b　（埋 35 ）　塚脇Ｘ－１号墳石室全景（北側から）

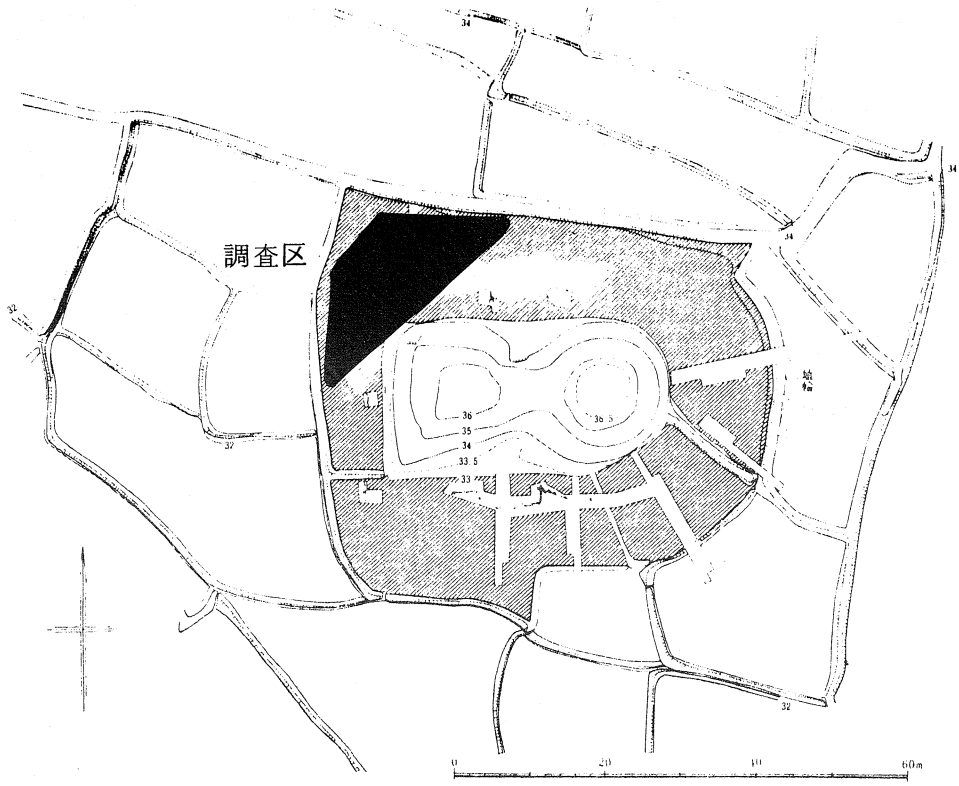


（埋 35 ）　塚脇Ｘ－１号墳石室実測図

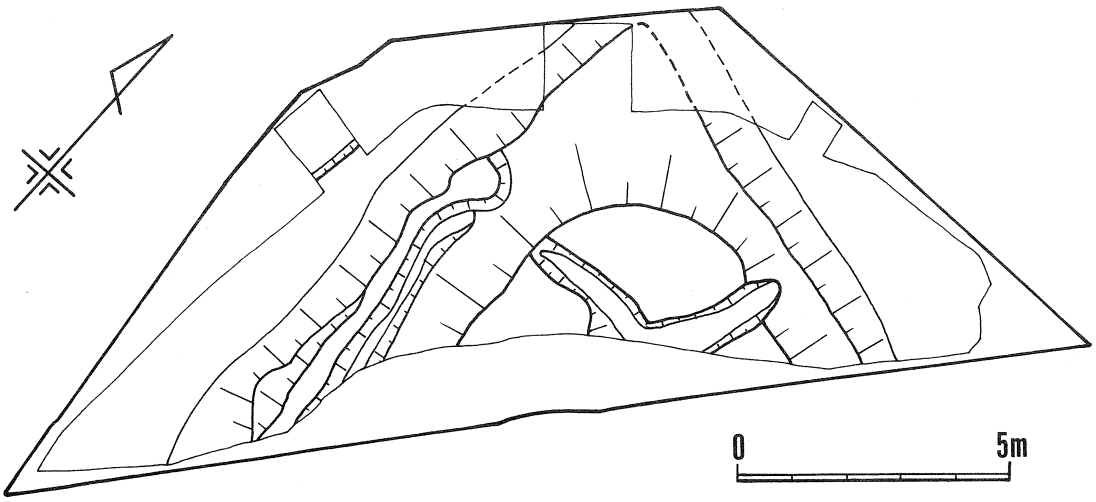


a　（埋 37 ）　二子山古墳全景（西側から）

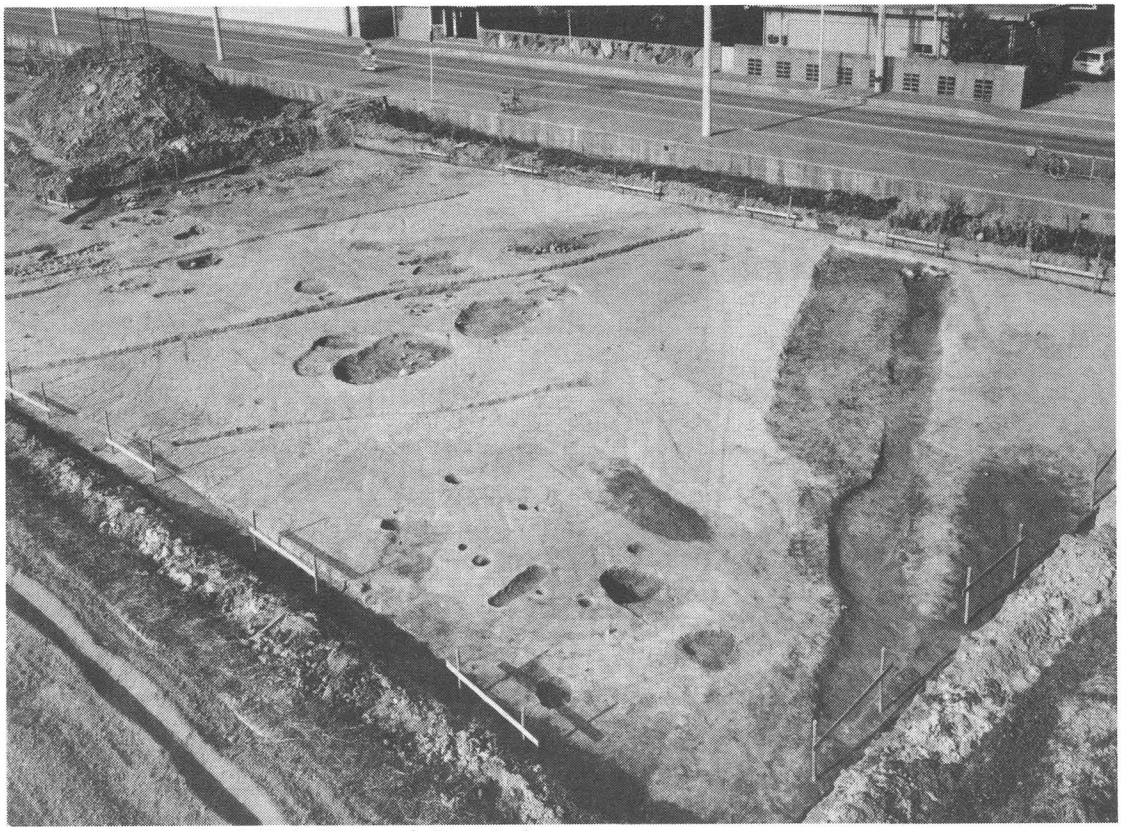
b　（埋 37 ）　前方部基底面（北側から）



a （埋37） 測 量 図



b （埋37） 遺 構 実 測 図

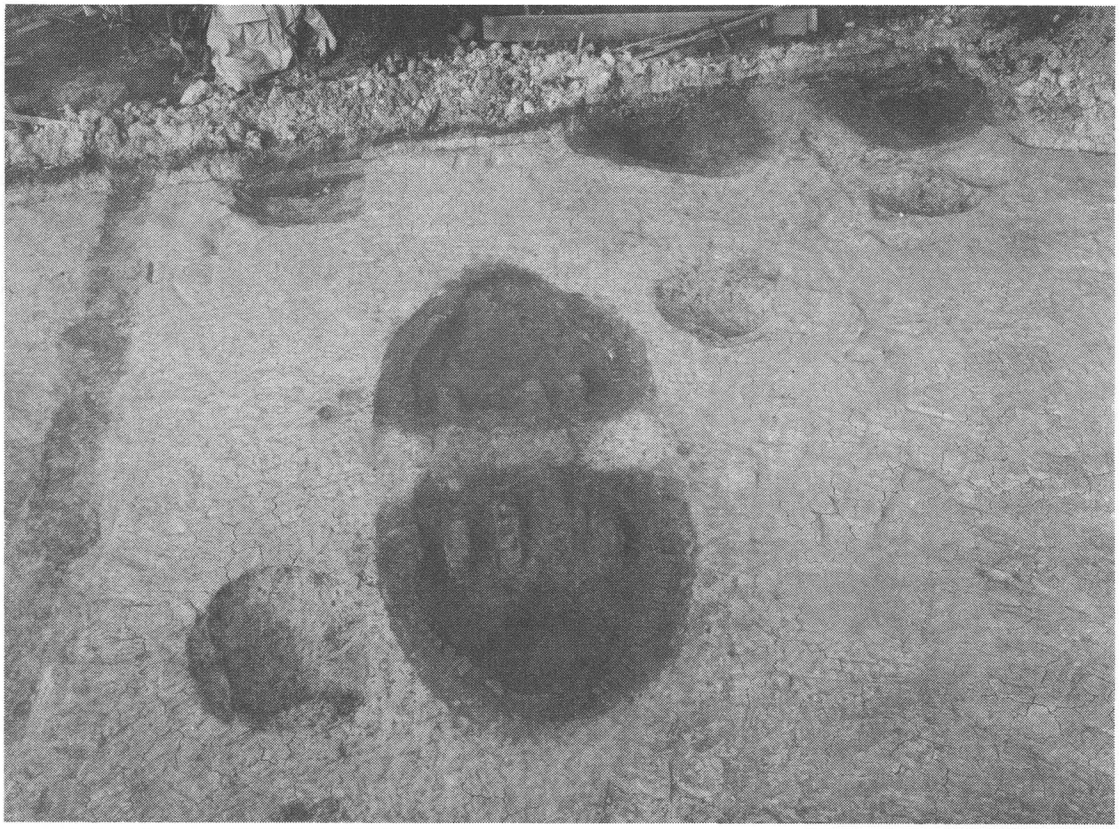


a　（埋41）　遺構全景（西南側から）

b　（埋41）　濠状遺構（西北側から）

a　（埋 43 ）　方形墳と土壙墓（北側から）

b　（埋 43 ）　方形墳（南側から）



a　（埋 45 ）　瓦窯跡（南側から）

b　（埋 45 ）　井　戸（南側から）